

## Ⅱ 高校進学等支援プログラム

令和7年10月版

神奈川県福祉子どもみらい局  
福祉部生活援護課

## II 高校進学等支援プログラム

### 1 目的

生活保護世帯等の中学生とその保護者に対して、子どもや保護者が主体的に進路を考え選択できるよう支援するとともに、子ども及びその世帯の課題を整理し、高校進学等支援を通して、子どもの社会的自立を支援する。

### 2 対象世帯

支援対象者のうち、中学生の子どものいる世帯

### 3 実施主体

福祉事務所

### 4 主な関係機関

中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校、教育委員会、民生・児童委員協議会等

### 5 実施方法

中学1年生の時期から、世帯の状況に応じて、高校進学への動機付け、高校等に関する的確な情報提供、各種貸付制度や生活保護制度上の取扱い等について説明を行うことを通じて、子どもや保護者が高校進学等に意欲を持てるよう、学校等関係機関と連携し支援する。

また、ケースワーカーと子ども支援員等が協働し、当該世帯の状況に応じた役割分担をしながら、継続的に支援する。

### 6 実施内容

- (1) 家庭訪問等により、子どもと保護者の状態を把握し、高校進学等の課題について「アセスメントシート」（ツール1）を作成する。「アセスメントシート」の作成は、プログラム参加への同意が得られたかどうかにかかわらず、通常のケースワーク業務の範囲として行う。プログラム参加の同意が得られたものについては、当該家庭から了解が得られた範囲の関係機関や子ども、保護者自身から話を聞くことなどによりアセスメントの情報を補う。
- (2) 必要に応じてケース検討会議を実施し、具体的な支援方法や内容、役割分担を決め、支援する。
- (3) 主な支援内容は、以下のとおり。
  - ア 生活状況や就学状況を確認し、高校等に関する情報の提供。
  - イ 各種学費支援制度、生活保護制度等を説明し、子どもが家庭の状況を理解するよう支援。
  - ウ 子どもと保護者の意向を確認し、明確な進路設定を支援。

- エ 進路の最終決定と選定を支援。
- オ 制度を説明し、安心して受験・就職に向かえるよう支援。
- カ 各種学費支援にかかる手続き、生活保護による扶助等の手続きに漏れがないよう支援。

## 7 具体的な支援における留意点

- (1) 生活状況や就学状況の把握、情報収集について
  - ア 子どもや保護者に「プログラム参加のお誘い」（ツール5）、子どもに「中学生のみなさんへ」（ツール6）を配付し、中学卒業後の進路について共に考えていきたい旨を伝える。
  - イ 支援にあたっては、子ども及び保護者とあらかじめよく話し合い、ともに歩む姿勢が重要である。特に学校等関係機関との調整や情報交換などに関与する場合は、子ども及び保護者の同意を得て行うことが前提となる。
  - さらに、学力や出席状況等の個人情報を直接関係機関から得る場合は、保護者から同意書を得るなど、個人情報の取扱いに十分配慮することが必要となる。
  - ⇒可能であれば子どもや保護者から成績表を見せてもらうなどして、成績や出欠状況を把握することが望ましい。
  - ⇒同意が得られた場合には、担任から学力や登校状況等情報収集することも可能である。この場合は、電話よりも、担任と直接面談することが望ましい。
  - ウ 同意については、保護開始から概ね3か月以内に、通常のケースワークの中でプログラムへ導入し、ケースワーカーまたは、子ども支援員が、面談時に原則として書面で同意を得て、記録に留める（ツール5、I子どもの育ちプログラム ツール2）。書面での同意が得られない等の事情がある場合は、その旨記録に留め、ケースワーク又は子ども支援員の支援の中で、可能な限り口頭で同意を得て、記録に留める。
  - エ 生活状況や就学状況を把握する際、「情報収集項目と方法」（ツール3）を参考に必要な情報を収集する。
- (2) 意向確認について
  - ア 中学1年生から、子どもや保護者に進路の意向を確認し、進学への動機付けを行う。
  - イ 「親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント」（ツール4）の項目を参考に面接時に聴取し、意向・意欲等の確認をする。
- (3) アセスメントについて
  - ア 「アセスメントシート」（ツール1）については、意向、課題、支援のポイント等を整理するシートとして使い、全て書き込む必要はない。
  - 「アセスメントシート」は、それぞれ面接を行ったケースワーカー又は子ども支援員が作成する。

イ 必要に応じてケース検討会議を実施し、具体的な支援方針（支援方法・内容・役割分担等）を定める。

ウ より支援が必要と思われる世帯に対しては、以下の例を参考とする。

（例）

- ・子どもと保護者の意向が一致していない世帯、学校で振り分けられた進路に子どもと保護者の意向がマッチングしていない世帯  
⇒面接頻度を高めるなどにより、進路調整を図る。
- ・学校との情報交換を嫌がっている又は拒否している世帯  
⇒嫌がる気持ちを傾聴し、その理由が解決可能なものについては調整するが、子どもや保護者との信頼関係を保つために無理はせず、調整の機会を伺う。
- ・福祉事務所の介入を嫌がっている又は拒否している世帯  
⇒査察指導員を含めた役割分担により複数体制で粘り強く関わる。進学支援以外の切り口で関わりの糸口を探る。

（4）意欲喚起・動機付けが必要な子どもや保護者に対して

ア 「親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント」（ツール4）を参考に、継続的かつきめ細かな家庭訪問や所内面接を繰り返し、意欲の形成を図る。

イ 高校に関する情報を提供し、選択の幅が広がるよう支援する。

ウ 高校で学ぶ意義を伝え、将来につながることを意識できるよう支援する。

（5）制度説明等について

ア 子どもや保護者に貸付制度や生活保護制度を説明し、子どもが家庭の状況を理解するよう支援する。その際は、生活保護を受けていることを保護者から子どもに伝えられるよう保護者を支援する。また、子どもが生活保護を受けていることをステigmaと受け止めることのないよう十分配慮する。

イ 各種制度等の説明には、（ツール7、8、9）や参考資料として提示した冊子等を用いて、わかりやすい言葉で丁寧に説明する。

（6）各年次における支援のポイント

- |    |   |
|----|---|
| 中1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活状況・就学状況を確認する。</li> <li>・高校に関する情報提供を行う。</li> <li>・子どもや保護者に進路の意向を確認し、進学を意識付ける。</li> </ul>   |
| 中2 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ方向（将来方向）に進むには今何が必要なのか考えさせる。</li> <li>・具体的な進路を設定する。</li> <li>・高校受験には中2の成績も選考資料となる場合が多いことを確認する。</li> </ul>                             |
| 中3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な進路を設定する。（進路の最終決定と受験校の選定）</li> <li>・受験制度を説明し、安心して受験に向かえるようにする。</li> <li>・保護者には、受験、入学、各種学費支援、生活保護による扶助等の手続きに漏れがないよう助言、確認する。</li> </ul> |

- 卒業後から  
高校入学ま  
での間
- 子どもと面接し入学までの準備を確認する。  
(通学のしかた、定期券購入のしかた等)  
• 高校入学後やりたいことや、アルバイトの希望等について確認する。  
(**III高校生支援プログラム ツール9～11の活用**)

(7) 支援スケジュール

「支援スケジュールと支援内容・チェックリスト」（ツール2）に沿って支援する。

(8) その他

- ア 必要に応じて、査察指導員が年度末に次年度の「中学生のいる世帯」を「支援対象者リスト」として福祉事務所のケースワーカー等に配付し、所内の意識付けを図る。
- イ 不登校、非行等の課題を有する世帯については、援助方針に基づき支援する。
- ウ 就職希望者については、学校や就労支援員等と協力の上、就労支援をする。
- エ 子どもとの家庭内面接については、部活動のない時、学校行事の代休、長期休業中等を利用する。
- オ 家庭以外での子どもとの面接については、学校や公民館、役場等を利用するなど工夫する。
- カ 子どもに直接会うことが難しい場合でも、高校進学後も継続的な支援をしていく必要があるため、会う機会を窺う。
- キ 学習に課題がある子どもに対しては、学習支援、塾や学習教材の紹介、学習方法の助言、学習する場所を紹介するなど、学習環境を整える支援をする。
- ク 必要に応じて、長期休業中に学校が実施している補習等への参加を促す。
- ケ 関係機関との連携については、以下の例を参考に地域性に応じ、工夫して連携を図る。
- コ 生活保護世帯以外の子どもとその保護者に対して支援を行う際も本プログラムを参考とする。

(例)

- ・毎年、教育委員会等から関係資料を入手する。
- ・課長等が校長会などに出席し、生活保護制度関係の情報提供、プログラムの紹介、子ども支援員の紹介等を行い、担任等とスムーズな連携が図れるようにする。
- ・ケースワーカーは、子ども支援員と民生・児童委員などが集まる会議に出席し、生活保護制度関係の情報提供、子ども支援員の紹介等を行い、民生・児童委員等とスムーズな連携が図れるようにする。

## INDEX

ツール 1	アセスメントシート	6
ツール 2	支援スケジュールと支援内容・チェックリスト	7
ツール 3	情報収集項目と方法、情報収集の検索キーワード・解説など	14
ツール 4	親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント	17
ツール 5	高校進学等支援プログラム参加のお誘い	19
ツール 6	中学生のみなさんへ	23
ツール 7	高等学校等就学費について（保護者・子ども向け）	25
ツール 8	高校進学に関するQ&A	27
ツール 9	私立高校に入学する場合に利用できる主な貸付について (保護者向け)	32
ツール 10	私立高校に入学する場合の学費の対応について	34
ツール 11	就学援助制度一覧	37
資料 1	私立高等学校等学費支援	41
資料 2	神奈川県私立高校生等奨学給付金（通常給付）のお知らせ	47
資料 3	神奈川県私立高校生等奨学給付金（家計急変世帯対象給付） のお知らせ	49
参考	次の冊子等は進路支援必携として、毎年必ず内容確認のこと 【県ホームページ】 ○ 神奈川県 教育委員会 「神奈川県公立高等学校入学者選抜について」	

アセスメントシート

対象児	男・女	世帯主
通学先	中学校 年 組	担任

面接日	年 月 日	年 月 日
進路の意向・意欲 (特に高校進学に対する意識を確認する)	<p>子ども</p> <p><input type="checkbox"/>進学したい  <input type="checkbox"/>県立高校(全日制・定時制)  <input type="checkbox"/>特別支援学校(国・公・私立)  <input type="checkbox"/>私立高校(高校・高等専修・サポート校)  <input type="checkbox"/>通信制高校  <input type="checkbox"/>専修・各種学校  <input type="checkbox"/>高等専門学校  希望校( )未定</p> <p><input type="checkbox"/>進学しない  <input type="checkbox"/>進学したくない  <input type="checkbox"/>進学出来ない  <input type="checkbox"/>決めていない  <input type="checkbox"/>就職したい</p> <p>上記理由</p>	<p>保護者</p> <p><input type="checkbox"/>進学させたい  <input type="checkbox"/>県立高校(全日制・定時制)  <input type="checkbox"/>特別支援学校(国・公・私立)  <input type="checkbox"/>私立高校(高校・高等専修・サポート校)  <input type="checkbox"/>通信制高校  <input type="checkbox"/>専修・各種学校  <input type="checkbox"/>高等専門学校  希望校( )未定</p> <p><input type="checkbox"/>進学しない  <input type="checkbox"/>進学させたくない  <input type="checkbox"/>進学出来ない  <input type="checkbox"/>決めていない  <input type="checkbox"/>就職させたい</p> <p>上記理由</p>
通学状況(出席・遅刻・早退・保健室登校等)	<p><input type="checkbox"/>毎日出席  <input type="checkbox"/>平均月3日以上欠席  <input type="checkbox"/>平均月半分以上欠席  (遅刻・早退・保健室登校等)  (自由記載欄)</p>	<p><input type="checkbox"/>毎日出席  <input type="checkbox"/>遅刻(多い・少ない・なし)  <input type="checkbox"/>早退(多い・少ない・なし)  <input type="checkbox"/>欠席(多い・少ない・なし)  (自由記載欄)</p>
学力・成績 (家庭学習の状況)	<p>成績</p> <p>提出物</p> <p>家庭学習</p> <p>その他</p>	<p>成績</p> <p>提出物</p> <p>家庭学習</p> <p>その他</p>
学校との情報交換	了解・拒否(理由: )	了解・拒否(理由: )

学校から情報収集	担任( )	電話・面談
情報収集日	年 月 日	
就学状況	<input type="checkbox"/> 問題なし <input type="checkbox"/> 問題あり	
学力・成績・意向・意欲等		
学校から見た保護者について		
学校の考える進路		
その他		

他機関からの情報収集(情報提供者: )(年 月 日)
他関係機関からの情報〔 〕
課題・支援のポイント・役割分担(年 月 日)

次回アセスメントは \_\_\_\_\_ 頃

年 月 日 作成  
作成者: \_\_\_\_\_

## 支援スケジュールと支援内容・チェックリスト

### ■中学1年生用

学校の進路関係行事予定	支 援 内 容
4月 入学式 部活動説明会	<input type="checkbox"/> 家庭訪問による生活状況、就学状況の確認 <input type="checkbox"/> 「プログラム参加のお誘い」（ツール5）を保護者に説明 <input type="checkbox"/> 「中学生のみなさんへ」（ツール6）を子どもに渡す <input type="checkbox"/> 学校との情報交換について同意確認 <input type="checkbox"/> 課外のクラブ活動（学習支援費）の費用についての説明
5月 (体育祭) 定期テスト	
6月 校外学習	
7月 定期テスト 面談 夏休み	<input type="checkbox"/> 子や保護者が高校等の入学者選抜制度の概要を理解しているか確認 <input type="checkbox"/> 保護者に生活保護制度（高等学校等就学費）、貸付制度の説明
8月	<input type="checkbox"/> 家庭訪問による夏休みの生活状況、学習状況の確認 <input type="checkbox"/> 7月の面談結果の確認 <input type="checkbox"/> 子や保護者に進路の意向確認と進学への動機付け
9月 定期テスト	
10月 (文化祭)	
11月 定期テスト	
12月 面談 冬休み	<input type="checkbox"/> 家庭訪問による生活状況、就学状況の確認 <input type="checkbox"/> 12月の面談結果の確認
1月	
2月 定期テスト	
3月 修了式 春休み	

行事予定については学校により違うので要確認。

## 支援スケジュールと支援内容・チェックリスト

### ■中学2年生用

	学校の進路関係行事予定	支 援 内 容
4月 ～		<input type="checkbox"/> 家庭訪問による生活状況及び就学状況の確認 <input type="checkbox"/> 「中学生のみなさんへ」（ツール6）を子どもに説明 <input type="checkbox"/> 学校との情報交換について同意確認 <input type="checkbox"/> 課外のクラブ活動（学習支援費）の費用についての説明
5月	定期テスト (体育祭)	<input type="checkbox"/> 高校等進学に関する情報提供（ツール7、8、9、参考資料） ・公立高校等（全日制・定時制・通信制・単位制）の種類 ・私立学校に通学する場合 ・高等学校等就学費の支給 <input type="checkbox"/> 学習状況の確認 <input type="checkbox"/> 高校等の入学者選抜制度の概要を説明
6月	校外学習	
7月 ～	面談 定期テスト 夏休み	
8月		<input type="checkbox"/> 家庭訪問による夏休みの生活状況及び学習状況確認 <input type="checkbox"/> 7月の面談結果の確認 <input type="checkbox"/> 進路の意向確認と進学への動機付け
9月	定期テスト	
10月	（文化祭）	
11月	定期テスト	
12月 ～	面談 冬休み	
1月		<input type="checkbox"/> 家庭訪問による生活状況及び就学状況の確認 <input type="checkbox"/> 12月の面談結果の確認 <input type="checkbox"/> 進路の意向確認と進学への動機付け
2月	定期テスト	
3月	修了式 春休み	

行事予定については学校により違うので要確認。

## 支援スケジュールと支援内容・チェックリスト

### ■中学3年生用

	学校の進路関係行事予定	支 援 内 容
4月 ～	校内進路説明会（4月又は5月）	<input type="checkbox"/> 家庭訪問による生活状況及び就学状況の確認 <input type="checkbox"/> 希望校・説明会日程の把握 <input type="checkbox"/> 高等学校等就学費、貸付の説明 <input type="checkbox"/> 学校との情報交換について同意確認 <input type="checkbox"/> 課外のクラブ活動（学習支援費）の費用についての説明
5月	体育祭 定期テスト	<input type="checkbox"/> 進路の意向確認と進路について支援
6月	修学旅行	
7月 ～	定期テスト 面談 夏休み	<input type="checkbox"/> 三者面談結果の確認 <input type="checkbox"/> 夏休み中の学校見学・説明会参加の意向確認 <input type="checkbox"/> 「募集案内Ⅰ・Ⅱ」の確認（県教委7月最新版発行）
8月	学校説明会・体験会（高校主催）	<input type="checkbox"/> 文化祭見学等による希望校見学、説明会等参加の意向確認
9月	定期テスト 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）志願相談期間	<input type="checkbox"/> 受検校の確認
10月	（文化祭）	<input type="checkbox"/> 就学状況・学習状況の確認
11月	受検料・入学料減免申請受付開始 定期テスト 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（前）募集期間	<input type="checkbox"/> 志望校・検査日の確認 <input type="checkbox"/> 受検料等減免申請手続き確認 <input type="checkbox"/> 母子父子寡婦福祉資金等の貸付制度の説明 ⇒ 利用希望〔有 無〕 <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（前）願書提出 <input type="checkbox"/> 県予約奨学金制度周知
12月 ～	面談 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（前）入学者選抜 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（前）合格発表 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）・二次募集志願相談 冬休み	<input type="checkbox"/> 三者面談結果の確認 <input type="checkbox"/> 受検手続きのもれがないか確認 ⇒ 受給証明発行 <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（前）受検・合否確認

1月	志願資格承認申請期間・交付 共通選抜募集期間 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）募集期間 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）入学者選抜 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）合格発表 定期テスト	<input type="checkbox"/> <u>願書提出の確認</u> <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）願書提出 <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）一次募集（後）受検・合否確認
2月	共通選抜志願変更期間 共通選抜 共通選抜合格発表	<input type="checkbox"/> 受検 <input type="checkbox"/> <u>高等学校等就学費の説明</u> <input type="checkbox"/> <u>入学準備金の説明</u> <input type="checkbox"/> 合否確認
3月	共通選抜二次募集 募集期間（欠員校） 共通選抜二次募集 志願変更期間 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）二次募集期間 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）二次募集入学者選抜 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）二次募集合格発表 定通分割選抜募集 募集期間 定通分割選抜募集 志願変更期間 共通選抜二次募集検査 定通分割選抜共通検査 卒業式 共通選抜二次募集合格発表 定通分割選抜合格発表	<input type="checkbox"/> 入学手続き ⇒ 高等学校等就学支援金申請 含め各種書類提出の確認 ⇒ 受給証明発行 [ 完了 未完了 ] <input type="checkbox"/> 定時制入学手続き ⇒ [ 完了 未完了 ] <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）二次募集 願書提出 <input type="checkbox"/> 県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）二次募集 受検・合否確認 <input type="checkbox"/> 入学準備金支給 <input type="checkbox"/> 高等学校等就学費支給 <input type="checkbox"/> 教材代、通学のための交通費支給 <input type="checkbox"/> アルバイト収入の取扱い説明

行事予定については学校により違うので要確認。

◆◆◆支援内容ごとのツール、チェックポイント（1、2年生共通）◆◆◆

□家庭訪問による生活状況及び就学状況の確認

- 【ツール】ツール1 「アセスメントシート」  
ツール3 「情報収集項目と方法」  
ツール4 「親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント」  
ツール5 「高校進学等支援プログラム参加のお誘い」  
ツール6 「中学生のみなさんへ」

□学習状況、親と子の進学意向確認

- 【ツール】ツール4 「親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント」

□高校選抜制度の説明（神奈川県は中2、中3の成績が選考資料になる）

- 【リーフレット・県教育委員会ホームページ】 「募集案内Ⅰ・Ⅱ」 参照

□特別支援学校入学者選抜制度の説明

- 【県特別支援教育課ホームページ】

「県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜制度について」 参照

- 【県特別支援教育課ホームページ】

「輝けきみの明日」 参照

□高校進学にかかる費用、貸付制度の説明

- 【ツール】ツール7 「高等学校等就学費について」  
ツール8 「高校進学に関するQ&A」  
ツール9 「私立高校に進学する場合に利用できるおもな貸付について」  
ツール10 「私立高校に入学する場合の学費の対応について」  
ツール11 「就学援助制度一覧」

- 【リーフレット・県教育委員会ホームページ】 「募集案内Ⅰ・Ⅱ」 参照

◆◆◆支援内容ごとのツール、チェックポイント（3年生）◆◆◆

□高校進学にかかる費用、貸付制度の説明

- 【ツール】ツール7 「高等学校等就学費について」  
ツール8 「高校進学に関するQ&A」  
ツール9 「私立高校に進学する場合に利用できるおもな貸付について」  
ツール10 「私立高校に入学する場合の学費の対応について」  
ツール11 「就学援助制度一覧」

【リーフレット・県教育委員会ホームページ】 「募集案内I・II」参照

□学校説明会（早めの日程把握が必要）

希望校のホームページを確認するか、各学校進路指導担当に問い合わせる。

□県立特別支援学校 学校説明会（特別支援教育課ホームページに日程掲載 参照）

□特別支援学校入学者選抜制度の説明

【県特別支援教育課ホームページ】

「県立特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜制度について」参照

【県特別支援教育課ホームページ】

「輝けきみの明日」参照

□県立特別支援学校の学校見学、進路相談、志願相談用資料を確認し、県立特別支援学校への志願について進路相談を重ねる。日程等の確認をする。

□成績、面談結果によって夏休みの学習フォロー対策を立てる。

□進学への動機付けは、学校説明会・見学会・文化祭など、実際に希望校を訪問することによって意識づけをする。

□三者面談で、子ども、保護者、学校間で希望校等の意見が分かれた場合、子どもの意思が尊重され、子どもの視点にたち十分協議されているか確認する。

□受検手続きに“もれ”はないか、学校、保護者と十分連携しながら最終確認する。（県立高校の場合）入学検定料（同時に入学料も可）の減免申請をしたか確認する。

□入学手続き・入学準備に関して

（県立高校の場合）

- ・合格発表の時に、入学手続きの書類一式が渡される。
- ・書類の手続きは、合格発表から数日のため、減免申請の許可証にあたる「審査結果確認証」の書類の所在をつかんでおく。
- ・この「審査結果確認証」はA4サイズを4分割で3通作られており、入学検定料用、入学料還付請求用（該当者のみ）に使用できるようになっている。（家庭で持っているのか、学校で預かっているのか確認）

◆◆◆個別のケースごとの資料（1～3年生）◆◆◆

次の項目について、関係部局のホームページや冊子等を参照してください。

外国籍 …… 【リーフレット・県教育委員会ホームページ】 「募集案内Ⅰ・Ⅱ」  
教育委員会HP「公立高校入学のためのガイドブック」外国語版

## 情報収集項目と方法

欲しい情報項目に□ 横欄の○から情報を得られる。逆に、方法から得たい情報が見られるところもある

情報収集の方法	家庭			学校						その他					
	・家庭訪問	・本人との面談	・親との面談	・第三者面談同席	・担任との情報交換	・教育相談コーディネーター	・学校公開週間・授業参観	・養護教諭	・進路指導担当教諭	・生徒指導担当教諭	・部活動顧問教諭	・インターネット	・医療機関	・市町村子育て担当課	・民生・主任児童委員
情報収集したい項目															
学習	<input type="checkbox"/> 評定(成績)	○	○	○	○	○									
	<input type="checkbox"/> 授業態度	○	○	○	○	○	○	○	○						
	<input type="checkbox"/> 提出物	○	○	○	○	○	○	○							
	<input type="checkbox"/> 家庭学習の習慣	○	○	○	○	○							○	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭学習環境	○	○	○	○	○							○	○	
	<input type="checkbox"/> 他(委員会,部活,生徒会)	○	○	○	○	○				○	○				
進路	<input type="checkbox"/> 進学・意向	○	○	○	○	○			○				○	○	
	<input type="checkbox"/> 就労・職業観	○	○	○	○	○			○						
	<input type="checkbox"/> 入試日程表				○	○	○	○	○			○	○		
	<input type="checkbox"/> 学校説明会情報				○		○	○	○			○	○		
	<input type="checkbox"/> 興味・趣味	○	○	○	○				○	○	○			○	
	<input type="checkbox"/> 高等・専修学校情報					○	○		○			○	○		
健康	<input type="checkbox"/> 健康(心身)	○	○	○	○	○		○		○			○	○	○
	<input type="checkbox"/> 食事(家庭、給食)	○	○	○		○	○	○					○	○	
	<input type="checkbox"/> 生活リズム	○	○	○	○	○		○		○			○	○	○
	<input type="checkbox"/> 他(登校状態など)	○	○	○	○	○	○	○		○	○				
心理・社会	<input type="checkbox"/> 情緒	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○
	<input type="checkbox"/> 友人関係	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○
	<input type="checkbox"/> 集団適応	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○
	<input type="checkbox"/> 先生との関係	○	○	○	○	○	○	○	○	○					
	<input type="checkbox"/> 地域との繋がり	○	○	○					○				○	○	○
	<input type="checkbox"/> 気質	○	○	○	○	○	○	○		○			○	○	○
他	<input type="checkbox"/> 学校行事予定表	○	○	○	○	○	○	○	○						

## 情報収集の検索キーワード・解説など

### 1. インターネットからの情報

#### （1）厚生労働省HP

厚生労働省HP ⇒ 政策について ⇒ 分野別の政策一覧 ⇒ 福祉・介護 ⇒ 生活保護・福祉一般 ⇒ 生活保護制度 ⇒ 子どもの進路選択支援等「子どもの進路に関する情報について【〇カツ（まるかつ）】

生活保護世帯の中学生や高校生が進路選択するにあたり、必要となる情報や受けることができる支援策等について分かりやすくまとめた進路支援冊子です。

#### （2）神奈川県教育委員会HP

神奈川県HP ⇒ 教育委員会

公立の学校の入学者選抜に関するほとんどの情報が集約されています。神奈川県公立高等学校及び県立特別支援学校高等部入学者選抜については、7月頃から順次新しい情報が更新されます。

#### 【高等学校】

##### ・入試日程の確認

神奈川県HP ⇒ 分類から探す ⇒ 教育・文化・スポーツ ⇒ 入試・進学 ⇒ 公立高校入学者選抜 ⇒ 神奈川県公立高等学校入学者選抜について

##### ・進学先学校の情報

各学校のHPにアクセスできます。学校説明会の情報や、入試の選考基準などの詳細もここで得られます。

#### 【特別支援学校】

##### ・入試日程の確認

神奈川県HP ⇒ 分類から探す ⇒ 教育・文化・スポーツ ⇒ 教育 ⇒ 特別支援教育 ⇒ 神奈川県立特別支援学校入学者選抜について

##### ・進学先学校の情報

各学校のHPにアクセスできます。学校の様子や学校説明会の情報などもここで得られます。

#### 【高等学校・専修学校・各種学校一覧】

##### ・神奈川県高等学校一覧

神奈川県HP ⇒ 分類から探す ⇒ 教育・文化・スポーツ ⇒ 教育 ⇒ 高校教育 ⇒ はいすぐーる・わんだーらんど（神奈川県の高校紹介ページ）

##### ・神奈川県内の特別支援学校一覧

神奈川県HP ⇒ 分類から探す ⇒ 教育・文化・スポーツ ⇒ 教育 ⇒ 教育制度・教育統計 ⇒ 神奈川県公立学校名簿

##### ・一般社団法人神奈川県各種学校専修学校協会公式Webサイト

## 2. 学校からの情報

(1) 担任以外に、進路指導、生徒指導、部活動の担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラー（S C）、スクールソーシャルワーカー（S S W）、相談員等から、普段の子どもの様子についての情報を得られることもあります。特にS S Wとの連携を図ることは有効です。

### (2) 教育相談コーディネーター

公立小学校や中学校では、各学校において教育相談コーディネーターを指名しています。教育相談コーディネーターは、支援の必要な児童生徒について、関係者でケース会議を開いて具体的な検討をするなど、校内支援体制整備の推進役となる人です。

### (3) 学校行事予定表

年度初め（4月）には、年度の主な計画が学校で決められています（定期テスト、三者面談、授業参観、代休日、遠足、体育祭などの行事）

中学生本人との面談は、日程確保が難しいので、三者面談期間、行事の代休日などを知っておくと、確保しやすいです。

## 3. その他からの情報

児童相談所、地域の民生委員、主任児童委員、市町村の子ども担当課など、子どもの関わっている状況に応じて情報収集できます。医療機関は、地域連携室や医療ソーシャルワーカーと連携しておくとよいでしょう。

### 親子の意向、意欲、認識を知るための話題のポイント

- 1 親子に面接をする。
- 2 学校の担任、進路指導担当と面談する。保護者、本人の同意を得ておく。
- 支援やアセスメントの際に子ども自身や保護者の意向、意欲、認識を確認することは大切だが、意向、意欲、認識は抽象的になりやすいので、確認のポイントを作成した。
- ポイントはあくまでも面接の際の参考とする。思春期の子どもと話す際に会話のきっかけ、面接等で話題にするといいポイントをまとめた。
- 進め方として、生活保護開始時に進路支援の対象になる子どもには、早い時期に面接の機会を持つ。
- 2年次で、進路選択のことが学校でも取り上げられるようになったらポイント項目を選択して再度面接を行う。
- 3年次に、自分の学習の力や進学先の情報が現実的になってきた段階で再度ポイント項目を選択して面接を行う。

<b>子どもから聞き取り</b>	<b>自分自身に気づいていることを聞く</b>
	良いところ 好きなところ 趣味・特技 興味あること 得意な科目 楽しかったこと 頑張っていること 自己アピール 大切にしようと思っていること 今困っていることは何か
	<b>これからの自分について</b>
	興味のあること、知りたいことは何か 将来やってみたいことは何か 高校に行きたいか 面白そうだと思う職業は何か 5年後、10年後は何をしているか
	<b>勉強に対する考え方</b>
	勉強しなさいと言われるか 勉強は好きか 楽しいか 自宅学習は何時間ぐらいするか 何のために勉強しているか 分からぬことがあった時どうしているか
	<b>生活のリズム</b>
	何時ごろ寝て何時頃起きるか
	<b>家族・親に対する考え方</b>
	親が自分のことに関心を持っているか 親はどういう人か 困ったときに親以外に相談できる人はいるか 家事など手伝いはしているか
	<b>家計の状況を知っているか</b>
	小遣いは 生活保護を受けていることを知っているか 制度の理解度は 一か月どれくらい生活費がかかると思うか
	<b>学校生活・友人関係</b>
	部活動は何をしているか 生徒会では委員会に入っているか 友人はいるか 友人と一緒で楽しかったことは何か 友達関係でいやな経験はあるか 仲の良い友人はどんな子か
	<b>担任に対する関心、希望</b>
	担任とはうまくいってるか 自分のことをどう思っていると思うか いやな経験はあるか 先生の話でよかったですはあるか

親から聞き取り	<p><b>基本的な生活習慣</b></p> <p>起こされなくても起きられるか 睡眠時間はどれくらいか 朝ご飯は食べているか 夕食は家族と一緒にか 整理整頓はできているか 忘れ物はないか テレビは1日どれくらい見るか 家の手伝いは何をしているか</p> <p><b>子どもの性格や交友関係など</b></p> <p>良いところ 趣味 特技 得意な科目 頑張っていること 気になるところ 子どもの友人を知っているか 子ども会や地域の行事に参加するか</p>
	<b>学習の状況</b>
	<p>言われなくても勉強するか 宿題はやっていくか 提出物は出しているか 学校のことを話題にするか 成績はどのくらいか 子どもの独自の勉強・生活空間はあるか</p>
	<b>将来の希望</b>
	<p>子どもの将来に対する希望 保護者の希望</p> <p><b>経済的なやりくり</b></p> <p>小遣いは与えているか 生活保護について話題にしたことがあるか <b>子どもが保護者をどう思っているか</b></p> <p>子どもにどう思われているか 自分をどう思っていると思うか</p>
担任（学校）から聞き取り	<p><b>基本的な生活習慣</b></p> <p>遅刻、欠席の状況 整理整頓はできているか 忘れ物はないか 健康状態は安定しているか 給食時間の様子</p> <p><b>子どもの性格など</b></p> <p>良いところ 特技 頑張っていること 気になるところ 交友関係 集団の中での態度</p>
	<b>学習の状況</b>
	<p>宿題はやってくるか 提出物は出しているか 成績はどれくらいか 得意な科目 苦手な科目 部活動は何をやっているか 授業中はどんな様子か</p>
	<b>将来の希望</b>
	<p>子どもの将来に対する希望 保護者の希望</p> <p><b>保護者の態度、学校への協力など</b></p> <p>親子関係で気になるところはないか 面談への参加、連絡等はスムーズか 行事への参加はどうか</p>



## 「高校進学等支援プログラム参加のお誘い」

ちゅうがくにゅうがく  
中学入学おめでとうございます

あたら かんきょう  
新しい環境にとまどうことも多いことだと思いますが、お子さんは元気に学校に行っていますか？

ちゅうがくせい  
中学生になったばかりで高校進学等の話？と不思議に思う方もいると思いますが、  
ちゅうがく ねんかん たの す きほう しんろ すず  
中学3年間を楽しく過ごし、希望の進路に進めるよう、私たちができるることを今から  
しょん おも  
支援していきたいと思います。

ぜひ、今から心の準備をすすめてみませんか？

### 【支援プログラムの内容】

がくしゅう せいかつ しんろ ないよう  
学習、生活、進路についての不安等の相談を受けます。ご家庭（保護者・お子さん）  
の進路についての考え方を聞きます。  
こうこうしんがくとう ひつよう じょうほう がっことう き  
高校進学等に必要な情報を学校等から聞いて、ご家庭に必要な支援を行い必要な  
せいかつ ほ こ せい ど せつめい  
生活保護制度の説明をします。

せいかつ ほ こ う こうとう しんがく  
Q生活保護を受けていても高校等へ進学できるの？

A問題ありません。将来、自分でやりたいことを探すためにも高校等へ進学しましょう。

しんがく かね  
Q進学するにはお金がかかります。余分なお金がありません。

A生活保護費からも教科書代や交通費を支給できます。など・・・

ちくたんとう  
地区担当  
でんわ  
電話  
〇〇保健福祉事務所生活福祉課△△





## 「高校進学等支援プログラム参加のお誘い」

中学入学おめでとうございます。

新しい環境にとまどうことも多いことだと思いますが、お子さんは元気に学校に行っていますか。

中学生になったばかりで高校進学等の話？と不思議に思う方もいると思いますが、中学3年間を楽しく過ごし、希望の進路に進めるよう、私たちができるることを今から支援していきたいと思います。

ぜひ、今から心の準備をすすめてみませんか？

### 【支援プログラムの内容】

学習、生活、進路についての不安等の相談を受けます。

ご家庭（保護者・お子さん）の進路についての考え方を聞きます。

高校進学等に必要な情報を学校等から聞いて、ご家庭に必要な支援を行い必要な生活保護制度の説明をします。

Q 生活保護を受けていても高校等へ進学できるの？

A 問題ありません。将来、自分でやりたいことを探すためにも高校等へ進学しましょう。

Q 進学するにはお金がかかります。余分なお金がありません。

A 生活保護費からも教科書代や交通費を支給できます。など・・・

地区担当 ○○保健福祉事務所生活福祉課△△  
電話





# 「高校進学等支援プログラム参加のお誘い」

ちゅうがくにゅうがく  
中学入学おめでとうございます

あたら かんきょう おお おも こ げんき がっこう い  
新しい環境にとまどうことも多いことだと思いますが、お子さんは元気に学校に行っ  
ていますか？

## 【支援プログラムの内容】

がくしゅう せい かつ しんろ ふあんとう そうだん う かてい ほこしや こ  
学習、生活、進路についての不安等の相談を受けます。ご家庭（保護者・お子さん）

こうこうしんがくとう ひつよう じょうほう がっこうとう き かてい ひつよう しえん おこな ひつよう  
高校進学等に必要な情報を学校等から聞いて、ご家庭に必要な支援を行い必要な  
せいかつほ こせいいど せつめい  
生活保護制度の説明をします。

せいかつほこうこうこうとうしんがく  
Q生活保護を受けていても高校等へ進学できるの?

もんだい しょうらい じぶん さが こうこうとう しんがく  
A問題ありません。将来、自分でやりたいことを探すためにも高校等へ進学しましょう。

Q 進学するにはお金がかかります。余分なお金がありません。

せいかつほこひ きょうかしょだい こうつうひ しきゅう  
A生活保護費からも教科書代や交通費を支給できます。など・・・

# 〇〇保健福祉事務所生活福祉課△△

・きりとり せん 總

じょうき せつめい こうこうしんがくとうしえん さんか  
ト記について、説明を受け、高校進学等支援プログラムに参加します。

年 月 日

## じゅうしょ 住所

しめい  
氏名





## 「高校進学等支援プログラム参加のお誘い」

中学入学おめでとうございます。

新しい環境にとまどうことも多いことだと思いますが、お子さんは元気に学校に行っていますか。

中学生になったばかりで高校進学等の話?と不思議に思う方もいると思いますが、中学3年間を楽しく過ごし、希望の進路に進めるよう、私たちができるることを今から支援していきたいと思います。

ぜひ、今から心の準備をすすめてみませんか？

## 【支援プログラムの内容】

学習、生活、進路についての不安等の相談を受けます。

ご家庭（保護者・お子さん）の進路についての考え方を聞きます。

高校進学等に必要な情報を学校等から聞いて、ご家庭に必要な支援を行い必要な生活保護制度の説明をします。

Q 生活保護を受けていても高校等へ進学できるの？

△問題ありません。将来、自分でやりたいことを探すためにも高校等へ進学しましょう。

Q 進学するにはお金がかかります。余分なお金がありません。

△生活保護費からも教科書代や交通費を支給できます。など・・・

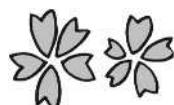
地区担当 ○○保健福祉事務所生活福祉課△△  
電話

上記について、説明を受け、高校進学等支援プログラムに参加します。

年 月 日

住所

氏名





## 中学生のみなさんへ

中学校生活はいかがですか。

勉強や部活、友達との時間など、いろいろな経験をしていることと思います。

学校でも話が出ているかもしれません、中学校を卒業した後の進路について考え始めてみませんか。

卒業後、どのような進路を選ぶかは、みなさんが自分で決めることですが、保健福祉事務所では、進路を考えるにあたって情報提供をしていきたいと考えています。

高校に進学したいと考えている人は、先生や家の人とよく相談して、生活保護の制度やお金のことで分からぬことがあります。保健福祉事務所の職員に早めに聞いてみてください。

少しでも早く働きたい、と就職を考える人がいるかもしれません。その考えはとても大事なものです。自立したいと考えるのは、大人に近づいている証拠ですね。

しかし、ここ数年の社会情勢はみなさんもご存じの通りとても厳しく、中学校を卒業してすぐに働くとしても希望の仕事に就くことは困難な状況もあります。

高校に進学し、もっと多くの人と出会い、経験をし、世界を広げることによって、より充実した生き方や仕事を選択できるようになると思います。

わたしたちはみなさんが高校に進学することを応援します。

夢や希望の実現のために、今から少しずつ考えていきましょう。そのときには私たちを含めた周りの大人の人にぜひ相談してみてください。

You can do it !!





## 中学生のみなさんへ

中学校生活はいかがですか。

勉強や部活、友達との時間など、いろいろな経験をしていることと思います。

学校でも話が出ているかもしれません、中学校を卒業した後の進路について考え方始めてみませんか。

卒業後、どのような進路を選ぶかは、みなさんが自分で決めることですが、保健福祉事務所では、進路を考えるにあたって情報提供をしていきたいと考えています。

高校に進学したいと考えている人は、先生や家の人とよく相談して、生活保護の制度やお金のことで分からないう�あれば、保健福祉事務所の職員に早めに聞いてみてください。

少しでも早く働きたい、と就職を考える人がいるかもしれません。その考えはとても大事なものです。自立したいと考えるのは、大人に近づいている証拠ですね。

しかし、ここ数年の社会情勢はみなさんもご存じの通りとても厳しく、中学校を卒業してすぐに働くとしても希望の仕事に就くことは困難な状況もあります。

高校に進学し、もっと多くの人と出会い、経験をし、世界を広げることによって、より充実した生き方や仕事を選択できるようになると思います。

わたしたちはみなさんが高校に進学することを応援します。

夢や希望の実現のために、今から少しずつ考えていきましょう。そのときには私たちを含めた周りの大人の人にぜひ相談してみてください。

You can do it !!



保護者・子ども向け

高等学校等就学費について（参考）

令和7年4月時点

	県立高校		私立高校		特別支援学校高等部	
	生活保護制度	他制度	生活保護制度	他制度	生活保護制度	他制度
1. 入学検査料 (受検料)	—	(2,200 円) ①免除	30,000 円以内 ※1	—	—	無償
2. 入学料	—	(5,650 円) ①免除	5,650 円※2	※3 ②学費補助金 211,000 円	—	無償
3. 授業料	—	③就学支援金・ 臨時支援金 授業料相当額	—	※3 ②学費補助金 72,000 円 ③就学支援金 396,000 円	—	無償
4. 基本額(月額)	7,300 円	—	7,300 円	—	7,300 円	—
5. 学級費(月額)	2,170 円	—	2,170 円	—	2,170 円	—
6. 学習支援費(年額) クラブ活動費	101,000 円 (年間上限額)	—	101,000 円 (年間上限額)	—	101,000 円 (年間上限額)	—
7. 通学交通費 電車やバスの定期券代 自転車(購入費、防犯登録 料、駐輪場、個人賠償責任 保険料、修理代)	実費	—	実費	—	右記の補助で 不足分の実費	就学奨励制 度で補助
8. 入学準備金 制服、カバン、靴など	118,200 円以内 (福祉事務所が認めた 場合複数回支給可)	—	118,200 円以内 (福祉事務所が認めた 場合複数回支給可)	—	118,200 円以内 (福祉事務所が認めた 場合複数回支給可)	—
9. 教材代 正規の授業で使用する教材 (教科書、副読本的図書、ワ ークブック、和洋辞典、楽器)	実費	—	実費	—	右記の補助で 不足分の実費	就学奨励制 度で補助
10. 上記以外の就学費 修学旅行代、PTA 会費など	—	※3 ④奨学給付金 32,300 円	—	※3 ④奨学給付金 52,600 円	—	—

- ※1. 受検料は、原則として 2 校目までが支給対象となります。1 校につき上限額の範囲内で必要な額が支給されます。
- ※2. 入学料は、権利留保の目的（私立併願等）では支給されません。実際に入学が確定したことに対しての支給となります。
- ※3. ②③④の制度は、入学後、申請により支給されます。

＜生活保護以外の制度について＞ ※申請には「生活保護受給証明書」が必要です。

① 県立高校入学検定料等減免制度

志願前に県立高校（オンライン申請：志願先、書面申請：志願先以外でも可）に申請します。案内や申請書は中学校にあります。

（問合せ先）県立高校

② 神奈川県私立高等学校等生徒学費補助金（県の制度：県内在住・県内設置の高校等（通信制の場合は本部校が県内設置）に在学の方に支給）

入学後6月頃に、高校等から案内があります。高校等に申請します。

（問合せ先）県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ

電話 045-210-3793

③ 高等学校等就学支援金・高校生等臨時支援金（国の制度）【令和7年4月時点】

○私立高校の場合、入学後、高校等から案内があります。高校等に申請します。

（問合せ先）県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ

電話 045-210-3793

○県立高校の場合、合格発表の時に高校から案内があります。高校に申請します。

（問合せ先）志願先高校

④ 高校生等奨学給付金（県の制度）

県内の高校等の場合、6月頃に高校等から案内があり、7月1日以降に高校等に申請します。

（問合せ・申請先）志願先高校

（制度についての問い合わせ）

国公立 県教育委員会財務課高校奨学金グループ 電話 045-210-8251

私立 県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ

電話 045-210-3793

## 高校進学に関するQ&A

Q1. 生活保護を受給しながら県立高校に進学する場合に必要な手続きは？

A 生活保護を受給している場合には、必要な手続きを行うことで、各種軽減措置を受けることができます。しかし、手続きを決められた期日までに行わないと、軽減措置などが受けられなくなります。詳細については、以下を参照ください。

Q2. 生活保護を受給しながら私立学校に進学することは可能ですか。

A 私立高校は公立高校に比べて費用がかかりますが、各種制度を利用することで経済的な負担はかなり軽減できます。詳細については、以下を参照ください。

なお、高校進学にかかる費用は①受検料（入学検定料）、②入学料（入学時納入金）、③授業料、④通学交通費、⑤教材代、⑥制服、カバン等の費用に大別できます。

### ① 受検料（入学検定料）について

県立高校の場合、申請手続きを行うことで、入学検定料の減免を受けることができます。ただし、期日までに申請をしないと生活保護を受給されても減免が受けられませんので、ご注意ください。

私立高校の場合、受検料は上限額（3万円）の範囲内で必要な額が支給されます（原則2校まで）。

なお、受検料が3万円を超える場合には、不足分は自分で賄う必要があります。

### ② 入学料（入学時納入金）について

県立高校の場合、申請手続きを行うことで、入学料の減免を受けることができます。ただし、期日までに申請をしないと生活保護を受給されても減免が受けられませんので、ご注意ください。

私立高校等の場合、神奈川県私立高等学校等生徒学費補助金（県の制度県内在住・県内設置の高校等に在学の方に支給）を利用して生活保護世帯、住民税非課税世帯の場合 211,000円まで補助を受けることができます（入学後、申請により支給されます）。詳しくは、II高校進学等支援プログラム資料1や、神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ 電話 045-210-3793 または、志願先高校までお問い合わせください。

また、私立では、入学金（入学時納入金）が20～50（平均約37）万円程度かかるため、計画的に貯金する、または生活福祉資金（教育支援資金）や母子父子寡婦福祉資金を利用するなどの準備が必要です。

③ 授業料について

県立高校の場合、令和7年度については、高校の指定した期日までに高等学校等就学支援金及び高校生等臨時支援金（国の制度）の申請を行うことで、授業料の負担がなくなります。ただし、期日までに申請をしないと授業料の負担が生じますので、ご注意ください。

私立高校等の場合、神奈川県私立高等学校等生徒学費補助金（県の制度：県内在住・県内設置の高校等に在学の方に支給）と高等学校等就学支援金（国の制度）を利用することで、最大46万8千円補助を受けることができます。県内私立高校等の年間授業料は平均約46万8千円（令和6年度）のため、高校等によっては授業料についてこれら補助金・支援金により賄うことが可能です。（入学後、申請により支給されます。）詳しくは、Ⅱ高校進学等支援プログラム資料1や、神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ 電話045-210-3793 または、志願先高校等までお問い合わせください。

④ 通学交通費について

実費（通学に必要な最少限度の額）を生活保護で支給します。電車やバスの定期券代の他、自転車の購入費用（防犯登録料、駐輪場、個人賠償責任保険料、修理代を含む）についても最小限度の額が支給対象となります。

⑤ 教材代について

正規の授業で使用する教科書、副読本的図書、ワークブック、和洋辞典、楽器に限り実費を生活保護で支給します。

⑥ 制服、カバン等の費用について

入学時に入学準備金として118,200円以内を支給します。また、毎月高等学校等就学費基本額7,300円には、学用品費や通学用品費も含まれて算定されています。

※入学準備金について、福祉事務所が必要と認めた場合に限り、入学準備金の対象品目の複数回支給が認められます。

※ただし、神奈川県外の高校に進学する場合は、各種補助支援制度の取扱いが異なる場合がありますので、ケースワーカーに相談してください。

Q3. アルバイトで得た収入も収入認定の対象となりますか？

A アルバイトで得た収入は収入認定の対象となります。毎月必ず収入申告してください。ただし、アルバイト収入には収入額（給与総支給額）に応

じた基礎控除の他、20歳未満控除（11,600円）が適用されます。

また、次のような場合には収入として認定しません。

- ・私立高校授業料不足分、クラブ活動費及び学習費に相当する額。  
ただし、学習支援費を活用してもなお不足する分に限ります。
- ・修学旅行費。ただし、高校生等奨学給付金（※Q4参照）を活用してもなお不足する分に限ります。
- ・学習塾費。学習塾費の範囲は、学習塾等の入会金、授業料（家庭教師の月謝を含む）、講習会費、学習塾費等で使用される教材費、模擬試験代、学習塾への交通費となります。

さらに、卒業後の就労に必要な技能（自動車運転免許等）を修得する経費や、就労に資する資格を取得することが可能な大学等に就学するために必要な経費（事前に必要な受検料、入学料や前期授業料等に限る）等について、事前に福祉事務所に計画書等を提出し承認を受けると、その費用については収入として認定しない取扱いがあります。この場合、事前に福祉事務所とよく相談をすることが必要となります。

#### Q4. 高校の修学旅行の費用は保護費で支給されますか？

A 修学旅行の費用は保護費による給付の対象とはなりませんが、入学後に申請手続きを行うことで高校生等奨学給付金が支給されます。給付は年1回で、公立高校32,300円、私立高校等52,600円、通算3回（定時制及び通信制の課程にあっては、4回）が上限です。期日までに申請をしないと、給付が受けられなくなりますので、ご注意ください。

※ 詳しくは、公立高校の場合、神奈川県教育委員会財務課高校奨学金グループ 電話045-210-8251または、志願先高校等までお問い合わせください。

私立高校等の場合は、神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課助成グループ 電話045-210-3793または、志願先高校等までお問い合わせください。

#### Q5. 課外のクラブ活動（部活動）の費用は保護費で支給されますか？

A 学習支援費として、年額101,000円以内の範囲で支給されます。  
また、本人がアルバイトをしている場合は、アルバイト収入のうちクラブ活動の費用に相当する額は収入として認定しません（ただし、学習支援費を活用してもなお不足する分に限ります。）。この場合、事前に福祉事務所とよく相談をすることが必要となります。

Q6. 休学、留年、中途退学した場合、高等学校等就学費はどうなりますか？

A ① 休学した場合

休学期間中は高等学校等就学費は支給されませんが、休学を終え復学した場合は休学前と同様に高等学校等就学費が支給されます。

② 留年した場合

留年中の期間については、原則として給付対象外となります。ただし、引き続き高等学校等へ就学することが確実に世帯の自立助長に資すると見込まれる場合には、1年に限り高等学校等就学費を支給することができます。（本人の就学の意欲が高く、また生活態度等から高等学校等の卒業が見込まれる場合に限ります。）

なお、県の私立高校授業料補助は支給されます（上限期間あり）。

※ 休学・留学した場合の国の高等学校等就学支援金については在学の高校にお問合せください。

③ 中途退学した場合

中途退学後に再度別の高校に入学する場合、高等学校等就学費は原則支給されません。ただし、早期の自立助長の観点から、中退後概ね2年以内に再度高等学校等へ入学する場合で、就学することが確実に世帯の自立助長に資すると見込まれる場合には、1回に限り高等学校等就学費を支給することができます。（本人の就学の意欲が高く、また生活態度等から高等学校等の卒業が見込まれる場合に限ります。）

また、中途退学後、高等学校等就学費の給付を受けて高等学校等へ再入学する場合、再入学に伴って、教科書や学生服及び通勤用力バン等を新たに購入する必要性が生じた場合においては、必要な範囲内で購入するための教材代や入学準備金を支給することができます。

なお、国の高等学校等就学支援金、県の私立高校授業料補助は支給されます（上限期間あり）。

※ 高校に再入学したいときには、「中途退学者募集」及び「再入学制度」があります。詳細は、Ⅳ中学卒業後の社会生活支援プログラム資料1を参照してください。

Q7. 転校しても高等学校等就学費は支給されますか？

A 転校後も高等学校等就学費は支給されます。転校に伴って教科書や学生服及び通学用力バン等を新たに購入する必要がある場合は、教材代や入学準備金も支給されます。

Q8. 1年遅れで高校に入学する場合、高等学校等就学費は支給されますか？

A 一定の条件はありますか、支給対象となる場合があります。国の高等学校等就学支援金、県の私立高校授業料補助は支給されます。

Q9. 資格や免許を取得する費用は支給されますか？

A 高校の授業に関連のある資格試験を受ける場合、一定の条件はあります  
が、資格検定費用が支給されます。

また、高校在学中に卒業後の就職先が内定し、就労先で自動車運転免許  
が必要な場合に限り、免許取得費用を支給できる場合があります。

保護者向け

## 私立高校に入学する場合に利用できる主な貸付について

### ●母子父子寡婦福祉資金（貸付）

母子・父子家庭向けの貸付で、連帯保証人が必要となる場合があります。

- ・修学資金 私立高校月額 45,000円以内
  - ・就学支度資金 私立高校 410,000円以内 ※入学の際に必要な資金の貸付です。
- ※相談窓口は福祉事務所の母子・父子自立支援員です。

### ●高等学校奨学金（貸付）

生徒本人に対する貸付で、高等学校等卒業後に奨学生本人が返還します（進学等による返還猶予の制度あり）。※連帯保証人が原則2名必要です。

#### ＜貸付月額＞

学年及び学校区分により申込みができる基本月額が異なります。

学年	学校区分	申込みができる基本月額					加算を申込んだ場合※
1年生 (新入生に限る)	国公立	10,000円	20,000円	30,000円			—
	私立	10,000円	20,000円	30,000円	40,000円	50,000円	—
上記以外 の生徒	国公立	10,000円	20,000円				30,000円
	私立	10,000円	20,000円	30,000円	40,000円		50,000円

※貸付月額の加算（1年生（新入生）以外が対象）

国公立20,000円、私立40,000円では必要な学資を賄えない場合に、その事情等を記載した書類を提出することにより、基本月額に10,000円を加算することができます。

#### ＜問合せ先＞

進学先の高等学校等の担当者、

又は県教育委員会財務課高校奨学金グループ（電話 045-210-8251）

### ●生活福祉資金（教育支援資金）

- ・教育支援費 月額・限度額 35,000円以内
- ・就学支度費 限度額 500,000円以内 ※入学の際に必要な資金の貸付です。

※相談窓口はお住まいの町村の社会福祉協議会です。

母子父子寡婦福祉資金の貸付が優先されます。

※貸付や学費支援制度に関するご案内は以下のリーフレット、チラシもご確認ください。

「私立高等学校等の学費支援制度のご案内」（各年度）

神奈川県 福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課 作成

「教育支援資金のご案内」

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会 作成

「母子父子寡婦福祉資金のご案内 ～修学資金・就学支度資金を利用される方へ」

神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部子ども家庭課 作成

〈参考〉神奈川県私立高校学費 県平均（就学支援金等適用前の金額）

初年度納入金 約 98 万円

3年間の総額 約 229 万円

私立高校に入学する場合の経費全国平均

受験料 約 17,000 円

年間授業料 約 46 万円

初年度納入金 約 78 万円

3年間の総額 約 201 万円

- ・併願の場合、入学金の延納が認められない学校があります。
- ・私立高校に入学すると、上記以外にもさまざまな費用がかかります。必ず各校の要項でご確認ください。
- ・学校によっては、授業料等を滞納した場合、出席停止となることもあります。

## 私立高校に入学する場合の学費の対応について

### ○確認のポイント

#### ・どんな費用がかかるか（ツール8）

\*一般的に、受検料（入学検定料）、入学料、授業料、教材費、施設費、制服・かばん代、PTA費、修学旅行費（積立の場合が多い）などがあるが、その他に必要な費用がないか確認する。

\*国の高等学校等就学支援金、県の私立高等学校等生徒学費補助金による減額（併用可）がある。高校等によっては、これで年間の授業料を賄える場合もある。特に初年度は、一旦自力で準備して納入し、後から戻ってくる形になることがあるので、注意が必要。また、無認可のサポート校、他都道府県が認可する広域通信高校などは、県の補助の対象外なので、確認が必要。

\*高等専修学校（認可校）やサポート校（無認可校）については、本籍高校や連携高校の学費も併せてかかることがある。

\*無認可サポート校の場合、通学定期の学割が利用できないことがある。

\*特待生といつても、全ての費用が免除になるもの、入学金など一部免除になるもの、費用の免除はなく入学試験が免除になるものなど、学校や状況によっていろいろな形がある。

#### ・費用の納入時期はいつか

\*合格発表後数日中（入学手続き時）に納めるもの、入学前に納めるもの、入学後に納めるものがある。また、分割納入や月払いが可能なものもある。

\*推薦入学など、早く入学が決まる場合、入学金などを早い時期に納入しなければならないことがある。

#### ・納入期限に合わせて費用の準備が計画されているか

\*家庭の事情をよく聞きとり、必要に応じて母子・父子自立支援員（母子父子寡婦福祉資金貸付）につなぐ、社会福祉協議会の貸付（教育支援資金）について情報提供するなどの対応をする。

\*貸付など利用の必要がある場合は、受け取れる時期が納入の時期に間に合うかを確認する。

\*貸付を受けても不足する分など、家庭が自力で準備しなければならない費用がある場合は、貯蓄計画を確認したり、一緒に計画を立てるなどの対応をする。場合によって、貯蓄するための口座を別に作るなどの方策をとる。

\*神奈川県高等学校奨学金は、中学3年時に予約採用の制度がある。（11月頃から1月中旬頃まで募集）後段参照

## ○情報の収集方法について

- ・学費等の諸費用、納入期限については、学校に連絡し、学校案内や募集要項を取り寄せて確認する。ホームページなどには記載のない場合が多い。次年度の募集要項がまだできていない場合は、前年度のものを参考にする。

## ○学費補助や貸付については高校進学等支援プログラム ツール8、ツール9

- ・県ホームページ「私立学校学費支援制度のご紹介」参照  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/index.html>

### 補助金

- ・神奈川県私立高等学校等生徒学費補助金（県の制度）…ツール11 ⑧⑨
  - \*入学後申請（6月頃）により支給。締切日や補助の方法は学校により異なる。学校より案内あり。学校によっては、年度末にまとめて還付という形をとり、一旦、資金準備が必要な場合があるので注意。  
→神奈川県私学振興課または、在学の学校
- ・高等学校等就学支援金（国の制度）…ツール11 ②
  - \*1年生は4月と6月頃の2回、生徒が申請を行う。申請時、マイナンバーの提出が必要となる。マイナンバーがわからない場合は生活保護の受給証明が必要だが、生保開始日（4月申請時は前々年度、6月申請時は前年度の1月1日に受給していること）や発行日の要件があるので注意。開始日が要件にあっていない場合は、非課税証明書を提出する。
  - \*締切日や補助の方法は学校により異なる。学校より案内あり。期日までに申請しないと、申請が遅れた月数分支給対象外になるので注意。  
→神奈川県私学振興課または、在学の学校
- ・高校生等奨学給付金（県の制度）…ツール11 ⑦
  - \*授業料以外の教育費を支援する制度。返還の必要なし。7月1日から11月15日（家計急変は1月20日）までに（令和6年度の場合）保護者が申請。平成28年度から修学旅行参加要件を廃止したため、修学旅行参加の有無に関わらず申請することができるようになった。
  - \*県内の高校等に入学した場合は、入学後に学校より案内あり。  
→神奈川県私学振興課または、7月1日現在時点での在学の学校

### 貸付制度

- ・神奈川県高等学校奨学金（県の制度）…ツール11 ④⑤
  - \*生徒を対象にした貸付け。私立の場合、新入生は月額10,000円、20,000円、

30,000円、40,000円又は50,000円から選択。2年以上については10,000円、20,000円、30,000円又は40,000円からの選択となるが、40,000円では学資が不足する場合は、別途加算申請を行うことにより10,000円を加算し、月額50,000円を借りることが可能。

連帯保証人が原則2名必要。学校長の推薦が必要なため学校を通じて手続きを行う。

\*定期採用…入学後（4月）に申請。年3回に分けて振り込まれる（初回は7月下旬）。

予約採用…中学3年生の11月頃から1月中旬頃にかけ募集。定期採用より初回の振り込みが早い（5月下旬）。

#### 短期臨時奨学金

…予約採用が決定している人が、入学前の3月に前倒しで貸付けを受ける制度（120,000円）。2月中旬から3月上旬にかけ募集。入学後に申し込む高等学校奨学金と相殺することにより返還。

→県教育委員会財務課または、在学の学校

- ・教育支援資金（生活福祉資金）（県の制度）…ツール11 ⑫⑬

\*教育支援費（月額35,000以内）と、就学支度費（入学時に必要な資金500,000円以内）がある。他制度からの借入が困難な世帯が対象。

→居住地の市町村の社会福祉協議会

- ・母子父子寡婦福祉資金（貸付）（県の制度）…ツール11 ⑩⑪

\*修学資金（月額45,000円以内）と、就学支度資金（入学時に必要な資金410,000円以内）がある。

\*母子・父子家庭向け。連帯保証人が必要となる場合がある。

→福祉事務所の母子・父子自立支援員または、県子ども家庭課

- ・国の教育ローン

\*学生1人につき300,000円以内

→日本政策金融公庫

- ・市町村で独自の奨学金などの制度を設けている場合がある。

→市町村の教育委員会

- ・その他

交通遺児育英会奨学金、あしなが育英会奨学金、民間団体や学校が独自に実施している奨学金

→各団体に個別に問い合わせる。

No.	名 称	概 要 等	返還	問合せ先
①	高等学校等就学支援金 ・高校生等臨時支援金 (公立高等学校) 【令和7年4月時点】 国の制度	<p>☆全日制・定時制は授業料納付の後、年度末に還付。</p> <p>対象・条件：保護者等の市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額※に応じて、高等学校等就学支援金または高校生等臨時支援金を支給 (※父母の合計。政令指定都市の場合は、調整控除の額に3／4を乗じる。) 生徒・保護者が県外在住の場合も対象 家計が急変した世帯に対する支援制度あり</p> <p>補助金額：全日制：(年額)118,800円 定時制：(年額)32,400円 通信制：(単位)336円</p> <p>申請期間：入学する高校で合格発表時に案内配布 入学時と7月および一部毎年手続き必要 支給回数：学校による ※期日までに申請しないと支払い義務が生じる</p>	不要	各高校の事務室または県 教育委員会教育局行政部 財務課財務指導グループ TEL 045-210-8113
②	高等学校等就学支援金 (私立高等学校)	<p>☆授業料</p> <p>対象・条件：生活保護世帯／保護者等の市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額※が 304,200円未満の世帯 (※父母の合計。政令指定都市の場合、調整控除の額に3／4を乗じる) 生徒・保護者が県外在住の場合も対象 家計が急変した世帯に対する支援制度あり</p> <p>補助金額：生保・非課税：396,000円(通信制：297,000円) その他、所得区分に応じ 396,000円～118,800円</p> <p>申請期間：高校に入学後、学校へ申請 入学時と6月および毎年手続き必要 支給回数：学校による ※⑧および⑨の私立高等学校等生徒学費補助金(県の補助)と併用可</p>	不要	県福祉子どもみらい局子 どもみらい部私学振興課 TEL 045-210-3793
③	県立高等学校の 入学検定料等減免制度 県の制度	<p>☆県立高校の受験料(入学検定料)及び入学料の全部または一部減免</p> <p>対象・条件：いずれかに該当 1.生活保護を受給されている方 2.児童福祉施設に入所または里親に保護を受けている方 3.経済的理由で支払が困難な方</p> <p>申請期間：12月中旬以降、オンラインにて申請、又は在学の通学校又は県立高等学校等から申請書を入手し、 書面にて申請 県立高等学校等(オンライン申請：志願予定の県立高等学校、書面申請：志願先以外も可)に申請</p>	不要	各高校の事務室または県 教育委員会教育局行政部 財務課財務指導グループ TEL 045-210-8113

No.	名 称	概 要 等	返還	問合せ先
④	神奈川県高等学校 奨学金 (貸付)	<p>1.高等学校奨学金 ☆学資の援助を必要とする高等学校等生徒に奨学金の貸付を行う制度</p> <p>貸付対象：県内に在住し、県内の高等学校等※に在学する者 (※高等学校、中等教育学校後期過程、特別支援学校高等部)</p> <p>保護者が県内に在住し、高等学校等または専修学校高等課程に在学する者</p> <p>貸付金額：1年生：国公立12.3万円・私立12.3,4.5万円 2年生以上：国公立12万円・私立12.3,4万円(加算有～国公立、私立ともプラス1万円)</p> <p>申請期間：予約採用：中3時11月頃～1月中旬まで 定期採用：学校の指定する日(4月中)</p> <p>随時採用：1月末</p> <p>支給回数：4～9月分を7月下旬、10～12月分を10月下旬、1～3月分1ヶ月下旬口座振込み(定期採用の場合) 採用は選考により決定。毎年申請必要。連帯保証人原則2名必要。</p>	要	県教育委員会財務課 高校奨学金グループ TEL 045-210-8251
⑤	県の制度	<p>2.短期臨時奨学金 ☆入学前の3月に高等学校奨学金の一部に該当する額を前倒しで貸付ける制度</p> <p>入学後振り込まれる貸付金と相殺して返還。</p> <p>対象・条件：高等学校奨学金の予約採用奨学生として採用された生徒 補助金額：12万円</p> <p>申請期間：高等学校奨学金の予約採用決定時に案内</p> <p>支給回数：入学前3月一括</p> <p>※生徒が県外の高校在校予定でも該当。採用は選考により決定。応募要件は変更の可能性あり、隨時確認。</p>	要	各高校の事務室または県 教育委員会財務課 高校奨学金グループ TEL 045-210-8251
⑥	神奈川県高等学校 奨学金給付金 (国公立高等学校)	<p>☆授業料以外の教育費負担を軽減する制度</p> <p>対象・条件：申請する年度の7/1現在、保護者等が県内に在住し、高校生等がいる世帯で、次のいずれかの世帯 授業料以外のPTA会費・生徒会費等に未済がある場合は給付金支給額から充当する</p> <p>1.申請する年度の7/1現在、生活保護世帯</p> <p>2.保護者等の都道府県民税所得割額及び市町村民税所得割額が0円 (非課税)の世帯。※家計急変により非課税相当となつた世帯を含む。</p> <p>3.生徒が在籍する課程が専攻科で、生計維持者の都道府県民税所得割額及び市町村民税所得割額 の合算額が、105,500円未満の世帯又は264,500円未満であり扶養する子等が3人以上いる世帯 (都道府県民税所得割及び市町村民税所得割の合算額が非課税世帯及び105,500円未満の世 帯を除く。)</p> <p>補助金額：生保：32,300円(年額) 非課税：通信制・専攻科は50,500円、通信制・専攻科以外は122,100円または143,700円(年額) 専攻科の課税世帯：10,100円</p> <p>申請期間：7/1から12/15まで。学校から案内あり。(令和7年度の場合)</p> <p>支給回数：年1回</p> <p>※就学支援金、学び直し支援金、又は専攻科支援金の受給対象者に限る</p>	不要	各高校の事務室または県 教育委員会財務課 高校奨学金グループ TEL 045-210-8251

No.	名 称	概 要 等	返還	問合せ先
⑦	神奈川県高校生等 奨学給付金 (私立高等学校)	<p>☆授業料以外の教育費負担を軽減する制度</p> <p>対象・条件：申請する年度の7/1現在、保護者等が県内に在住し、かつ高等学校等に在学している高校生等がいる世帯で、次のいずれかの世帯 授業料以外のPTA会費・生徒会費等に未済がある場合は給付金支給額から充当する</p> <p>1.申請する年度の7/1現在、生活保護(生業扶助)受給世帯 2.保護者等の都道府県民税及び市町村民税の所得割額の合算額の合計が0円(非課税)の世帯 3.保護者等が失業等の事由により家計が急変し世帯年収が非課税相当となる世帯</p> <p>補助金額：生保：52,600円(年額) 非課税：通信制(は52,100円、通信制以外(は152,000円(年額))</p> <p>申請期間：7/1から11/14(ただし家計急変世帯は1/19)までに申請書提出 学校から案内あり(令和7年度の場合)</p> <p>支給回数：年1回</p> <p>※生徒が県外の高校在校に在学している場合、世帯の状況や在学している高校の課程により支給額が異なる。</p>	不要	県福祉子どもみらい局子 どもみらい部私学振興課 TEL 045-210-3793
⑧	県の制度 等生徒学費補助金	<p>☆授業料</p> <p>対象・条件：1.県内私立高校等(通信制)の場合は県内に本部校設置)に在学 2.生徒・保護者ともに県内在住 3.生活保護または保護者等の市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額※ が251,100円未満、多子世帯(は304,200円未満)の世帯 (※父母の合計。政令指定都市の場合、調整控除の額に3／4を乗じる) ※多子世帯とは、23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯</p> <p>補助金額：所得区分に応じ72,000円～349,200円 申請期間：毎年6月頃に申請書と生活保護受給証明書等提出、学校から案内あり 支給回数：学校による ※②の高等学校等就学支援金(国の補助)と併用可</p> <p>☆入学金</p>	不要	県福祉子どもみらい局子 どもみらい部私学振興課 TEL 045-210-3793
⑨		<p>対象・条件：1.県内私立高校等(通信制)の場合は県内に本部校設置)に在学 2.生徒・保護者ともに県内在住 3.生活保護または保護者等の市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額※ が227,100円未満の世帯 (※父母の合計。政令指定都市の場合、調整控除の額に3／4を乗じる)</p> <p>補助金額：(入学年度の1回のみ)生活保護・非課税：211,000円(上限額) その他：100,000円(上限額) 申請期間：6月頃に学校から案内あり (⑧の申請と兼ねている) 支給回数：学校による</p>	不要	県福祉子どもみらい局子 どもみらい部私学振興課 TEL 045-210-3793

No.	名 称	概 要 等	返還	問合せ先
⑩	母子父子寡婦福祉資金 (貸付)	<p>1.修学資金：修学に必要な資金(授業料等)</p> <p>対象・条件：母子父子寡婦家庭の生徒 貸付金額：(月額)公立27,000円以内、私立45,000円以内 申請期間：隨時(目安は2～4月頃) 支給回数：3か月ごと ※母子・父子自立支援員との面談および連帯保証人必要 神奈川県高等学校奨学金等との併用不可</p> <p>2.就学支度資金：入学に必要な資金</p> <p>対象・条件：母子父子寡婦家庭の生徒 貸付金額：(公立)15万円以内 (私立)41万円以内 申請期間：隨時(目安は2～4月頃) 支給回数：1回 ※母子・父子自立支援員との面談および連帯保証人必要 神奈川県高等学校奨学金等との併用不可</p>	要	市在住は各市福祉事務所、町村在住は各保健福祉事務所または県子ども家庭課
⑪			要	市在住は各市福祉事務所、町村在住は各保健福祉事務所または県子ども家庭課
⑫	生活福祉資金 (教育支援資金)	<p>1.教育支援費</p> <p>対象・条件：低所得世帯、障害者世帯 補助金額：月額・限度額35,000円以内 支給回数：状況による ※母子父子寡婦福祉資金貸付が優先 他制度の借入困難な世帯が対象</p> <p>2.就学支援費：入学に必要な資金の貸付</p> <p>対象・条件：低所得世帯、障害者世帯 補助金額：限度額50万円 支給回数：1回 ※母子父子寡婦福祉資金貸付が優先 他制度の借入困難な世帯が対象</p>	要	住所地町村の社会福祉協議会
⑬			要	



神奈川県

令和7年度

# 私立高等学校等 学費支援

NEW! 令和7年度から対象を拡充しました

年収 **750**万円未満  
の世帯まで  
**授業料が実質無償化**

最大  
**468,000円**

多子世帯で  
年収 **910**万円未満  
の世帯まで**授業料が実質無償化**

最大  
**468,000円**

※多子世帯…23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯

住民税非課税世帯まで  
**入学金が実質無償化**

最大  
**211,000円**

年収910万円以上の世帯を対象に最大118,800円  
を支給する「高校生等臨時支援」については、  
リーフレットに記載していません。学校を通じて  
別にご案内いたします。

授業料等の返還時期や方法は  
学校により異なりますので  
学校に直接お問い合わせください。

年収に関わらず、リーフレットの内容をよく、ご確認ください。

発行/お問合せ 神奈川県 福祉子どもみらい局 子どもみらい部 私学振興課 助成グループ  
〒231-8588 横浜市中区日本大通1  
電話:045-210-3793(直通) 受付時間:平日 8:30~12:00、13:00~17:15  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/index.html>

返還不要

お申込みは高校入学後!

高等学校等  
就学支援金

学費補助金

神奈川県  
高校生等  
奨学給付金



神奈川県 学費支援



県ホームページ

## 各制度の補助額

point!

年収は目安です。審査の際は所得区分(住民税に基づく基準額を用いた計算の結果)で判断されます。

所得区分の確認方法は4ページをご覧ください。

年収 目安 〔モデル世帯〕	所得区分 (確認方法は4ページ参照)	授業料補助		入学金補助 ②学費補助金 (県の制度)	補助上限額
		①高等学校等就学支援金 (国の制度)	②学費補助金 (県の制度)		
生活保護～ 住民税 非課税世帯	令和7年1月1日 時点で生活保護 又は 県民税・市町村民税 の所得割額が0円 (非課税)	396,000円 通信制 297,000円	72,000円 通信制 171,000円	211,000円	授業料 468,000円 入学金 211,000円
270万円～ 590万円未満	154,500円 未満			100,000円	授業料 468,000円 入学金 100,000円
590万円～ 750万円未満	227,100円 未満		349,200円		
750万円～ 800万円未満	251,100円 未満		74,400円		授業料 193,200円
多子世帯	251,100円 未満	118,800円	349,200円		授業料 468,000円
800万円～ 910万円未満	304,200円 未満				授業料 118,800円
多子世帯	304,200円 未満		349,200円		授業料 468,000円

※ モデル世帯…両親・高校生・中学生の4人家族で、両親の一方が給与所得者として働いている世帯

※ 多子世帯…23歳未満の扶養している子ども(令和7年度の条件:生年月日が平成14年4月2日以後)が3人以上いる世帯

※ 補助上限額が学校の授業料や入学金を超える場合、超えた金額は支給されません。

## 対象となる制度をご確認ください。

高等学校等の所在地によって申請できる制度が異なります。

住 所	高校等所在地 ※1	①高等学校等就学支援金(国)	②学費補助金(県)※2
[生徒・保護者等とともに] 県内在住	県内 設置	○	○
	県外 設置	○	×

※1 通信制の場合は本部校の所在地で判断します。県内の学習等支援施設(サポート校等)に通う場合でも、本部校が県外にある通信制高校に在学している場合は「県外設置」の扱いとなります。

※2 生徒・保護者等とともに県内在住、かつ県内設置の私立高等学校等に通う生徒が対象となります。

単身赴任により保護者の方が県外在住(国内に限る)の場合も対象となります。

# 1

## 高等学校等就学支援金

●国の制度 ○返還不要

年収の目安	①高等学校等就学支援金	
	所得区分	授業料補助 (年額)
令和7年度の「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」※1		
生活保護	(令和7年1月1日時点で生活保護)	396,000円 (通信制297,000円)
非課税～590万円未満	154,500円未満	
590万円～910万円未満	304,200円未満	118,800円

私立高等学校等に在学する生徒が、家庭の状況にかかわらず安心して勉学に打ち込めるよう、授業料を補助する制度です。

- ▶ 私立高等学校等に通う生徒が対象となります。県外の私立高等学校等に通う場合は、学校が設置されている都道府県に申請します。
- ▶ 解雇や病気で働けないなど、やむを得ない理由(定年退職を除く)によって家計が急変した場合の家計急変支援制度もあります。

※1 父母の合計額です。政令指定都市の場合は、「調整控除の額」に3/4を乗じます。年収はあくまで目安です。

令和7年4月～6月分の授業料補助については、令和6年度の税額で判定します。

お申込み
全学年
6月頃

# 2

## 学費補助金

○県の制度 ○返還不要

NEW! 令和7年度から対象を拡充しました

年収の目安	②学費補助金		
	所得区分	授業料補助 (年額)	入学金補助 (入学年度の1回のみ)
令和7年度の「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」※1			
生活保護～住民税非課税	令和7年1月1日時点で生活保護 又は 県民税・市町村民税の所得割額が0円 (非課税)	72,000円 (通信制171,000円)	211,000円
270万円～590万円未満	154,500円未満		100,000円
590万円～750万円未満	227,100円未満	349,200円	
750万円～800万円未満	251,100円未満	74,400円	
多子世帯※2	251,100円未満	349,200円	
800万円～910万円未満	304,200円未満	対象外	
多子世帯※2	304,200円未満	349,200円	

県内の私立高等学校等に在学する生徒の保護者等の経済的負担を軽減するため、入学金・授業料を補助する制度です。

- ▶ 生徒・保護者等ともに県内在住、かつ県内設置(通信制の場合、本部校が県内設置)の私立高等学校等に通う生徒が対象となります。
- ▶ 保護者等が国外在住等により、市町村民税の課税標準額や調整控除の額を確認できない場合は対象となりません。
- ▶ **対象校**は県のホームページをご覧ください。



◀ 対象校一覧  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3/e/jyosei/gakuhisien/gakuhihojyo.html>

※1 父母の合計額です。政令指定都市の場合は、「調整控除の額」に3/4を乗じます。年収はあくまで目安です。

※2 多子世帯とは23歳未満の扶養している子ども(令和7年度の条件:生年月日が平成14年4月2日以降)が3人以上いる世帯です。

生徒が早生まれの場合の所得区分の算定について

生徒の生年月日が以下の表に該当し、扶養控除の適用が他の同学年の生徒よりも1年遅くなる場合は、「当該生徒を自己の扶養親族としている」保護者等の計算を次のとおり行い、所得区分を算出します。

「当該生徒を自己の扶養親族としている」 (市町村民税の課税標準額-33万円) × 6% - 市町村民税の調整控除の額  
保護者等※の計算方法:

※「」内に該当しない保護者等の計算は、通常どおり「(市町村民税の課税標準額) × 6% - 市町村民税の調整控除の額」で行います。

生徒の生年月日	制度	上記計算を使用する補助対象期間
平成20年1月2日～4月1日	①高等学校等就学支援金	令和7年4月分～令和7年6月分(3か月分) ※令和6年度の税額で算定
平成21年1月2日～4月1日	①高等学校等就学支援金 ②学費補助金	令和7年7月分～令和8年6月分(12か月分) ※令和7年度の税額で算定 令和7年4月分～令和8年3月分(12か月分) ※令和7年度の税額で算定

## 3

## 神奈川県高校生等奨学給付金

●県の制度 ○返還不要



神奈川県にお住まいの高校生等の保護者等に対して、授業料以外の教育費負担を軽減する制度です。(県外の私立高等学校等に通う場合も申請できます。)

次の①～③すべてに該当する世帯が対象です。

①保護者等が神奈川県に在住

②生徒等が令和7年7月1日現在、私立高等学校等(特別支援学校は除く)に在学

③「生活保護(生業扶助)を受けている世帯」又は

「保護者等全員の令和7年度の県民税・市町村民税所得割額の合計額が0円(非課税)の世帯」

※高等学校専攻科に通う生徒の受給要件については、県へお問い合わせください。

▶ 家計急変により、非課税相当となる世帯に対する給付もあります。

③ 神奈川県高校生等奨学給付金	支給単価	
令和7年7月1日時点で生活保護の生業扶助を受けている	52,600円	
令和7年度の県民税・市民税 所得割額が0円(非課税)※	全日制・定時制の学校	152,000円
	通信制・専攻科の学校	52,100円

※所得割額が0円(非課税)であれば、均等割額が課税されていても対象となります。

## 申請の方法



## 高校等に入学後、学校を通じて申請します。

※申請の具体的な方法は、学校を通じてご案内します。

- 「高等学校等就学支援金」や「学費補助金」は、学校が生徒や保護者等の方に代わって受け取り、授業料と相殺します。学校によっては、いったん授業料を納め、後日返還する場合があります。
- 返還の時期や方法は学校により異なりますので、  
詳細は [学校に直接お問い合わせください。](#)



県内の学校

▶ [申請書は学校が配付。](#) ▶ [申請書に記入し、添付書類とともに学校へ提出。](#)

県外の学校

▶ [申請書は申請者自身が県のホームページから取得。](#) (令和7年6月下旬以降更新予定)  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/syougakukyuuuhukinn.html>

▶ [申請者自身が添付書類とともに県へ直接郵送。](#)



[申請書ホームページ▶](#)



補助対象かわからない場合でも、念のため申請することをお勧めします。  
所得区分を確認しなくても申請いただくことができます。

## 所得区分の確認方法

### マイナンバーカードをお持ちの方

マイナポータル「おかね【税・所得】」で  
次の欄を確認してください。

確認欄 課税所得額(課税標準額) 市町村民税 調整控除額

2へ

### マイナンバーカードをお持ちでない方

課税証明書(市町村で発行)をご用意ください。

課税証明書は 調整控除の額を記載 する形で申請してください。

1へ

### 1 市町村民税の「課税標準額(課税所得額)」と「調整控除の額」を確認します。

#### 1. 課税標準額(課税所得額)の確認方法

課税証明書 記載例1

課税標準額	
総所得	○○○○○○円
上記以外の課税所得金額	○○○○○○円

※総所得以外の欄に金額がある場合は、その金額の合計額を計算に使用します。

課税証明書 記載例2

課税標準額	○○○○○○円
point!	市町村により様式が異なります。課税標準額が摘要欄や欄外に記載されることもあります。

#### 参考【特別徴収税額通知書の場合】

※特別徴収税額通知書では「調整控除の額」が確認できません。課税証明書又はマイナポータルで確認してください。

特別徴収税額通知書 記載例

総所得③	○○○○○○円
山林所得	○○○○○○円
分離短期譲渡	○○○○○○円
分離長期譲渡	○○○○○○円
株式等の譲渡	○○○○○○円
上場株式等の配当金	○○○○○○円
先物取引	○○○○○○円

全項目の合計額が「課税標準額」

#### 2. 調整控除の額の確認方法

point!

市町村によっては、申出がある場合にのみ記載するところもあるので、「調整控除の額」を記載して発行するように申請してください。摘要欄、備考欄等に記載されることがあります。

### 2 課税標準額、調整控除の額を用いて以下の計算をします。※2、3

市町村民税の課税標準額

× 6% -

市町村民税の調整控除の額 ※1

※1 政令指定都市の場合は調整控除の額に3/4を乗じます。

※2 生徒が早生まれの場合は2ページ「生徒が早生まれの場合の所得区分の算定について」をご確認ください。

※3 父母それぞれ別に計算し、計算結果を合算します。

計算の結果、父母の合計が304,200円未満ですか？

はい

いいえ 「高校生等臨時支援」に該当します※4

### 3 生徒・保護者等ともに神奈川県在住、かつ生徒は県内の私立高等学校等に在学していますか？

はい

いいえ ①「高等学校等就学支援金」の対象です

### 4 2の計算結果が251,100円未満ですか？

はい

いいえ

5 23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯ですか？

はい

いいえ ①「高等学校等就学支援金」の対象です

①「高等学校等就学支援金」 ②「学費補助金」の対象です。

補助額は2の計算結果によって異なります。詳しくは2ページをご覧ください。

※4 「高校生等臨時支援」については、リーフレットに記載していません。学校を通じて別にご案内いたします。

## その他の制度

学費支援を必要としている方に対し、貸付けの制度や、高校卒業後、大学等へ進学する方向けの支援制度があります。それぞれ、応募資格や支給額等が異なりますので、詳しくは各お問合せ先に、ご確認ください。

### 無利子の貸付制度(返還必要)

#### 神奈川県高等学校奨学金

各学校の奨学金担当者、または  
神奈川県教育委員会財務課 TEL:045-210-8251

#### 制度内容

学資の援助を必要とする高等学校等の生徒に奨学金の貸付けを行う制度

#### 貸付対象

- 県内に在住し、県内の高等学校等\*に在学する者  
(\*高等学校、中等教育学校後期課程、特別支援学校高等部)
- 保護者が県内に在住し、  
高等学校等または専修学校の高等課程に在学する者

#### 貸付内容(私立)

##### 貸付額

- ▶ 新1年生：月額1万円、2万円、3万円、4万円、5万円から選択
- ▶ 2年生以上：月額1万円、2万円、3万円、4万円から選択  
(2年生以上で、4万円では学資が不足する場合、月額に1万円の加算をする制度があります。)

##### 貸付方法

- ①7月下旬(4~9月分) ②10月下旬(10~12月分)
- ③1月下旬(1~3月分)に本人が指定した金融機関口座に振込みます。

#### 返還方法

開始：卒業後6か月経過した後から

返還期間：貸付期間の4倍以内の期間

猶予：進学した場合等に申請により返還猶予が可能。

免除：一定の条件を満たした場合には、返還が免除になることがあります。

#### 申込手続

募集案内、願書等の入手方法：学校で担任の先生などから。

または神奈川県教育委員会のホームページからダウンロード。  
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/en7/cnt/f324/>

- 連帯保証人が原則2人必要(保護者1人と別生計の者1人)。  
※借用証書とともに連帯保証人の印鑑登録証明書を提出。
- 定期採用の募集は4月です。  
各学校が定める期限までにお申込みください。
- 年度途中で奨学金の貸付けが必要になった場合は、隨時受付を行います。

#### 交通遺児育英会奨学金

公益財団法人 交通遺児育英会  
TEL:0120-521286 (フリーダイヤル)  
<https://www.kotsuji.com/>

#### 制度内容

経済的に修学が困難な生徒のための貸付け(一部給付制度あり)

#### 貸付対象

- 保護者等が道路における交通事故で死亡したり、  
著しい後遺障害で働けない場合

#### 母子父子寡婦福祉資金

(修学資金、就学支度資金等) ※一部有利子

市にお住まいの方 ▶ 各市役所(福祉事務所)・区役所  
町村にお住まいの方 ▶ 県の各保健福祉事務所

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/he8/hitorioya-support/fukushishikin/index.html>

#### 制度内容

扶養している児童や子の修学等に当たって経済的に援助を必要としている方に対し、福祉資金の貸付けを行う制度

#### 貸付対象

- 母子家庭、父子家庭、寡婦家庭

#### 生活福祉資金(教育支援資金)

※返済期限を過ぎた場合には延滞利子が発生します。

社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

TEL:045-534-6082

[https://www.knsyk.jp/service/fukushi-shikin/kashitsuke\\_kyoiku](https://www.knsyk.jp/service/fukushi-shikin/kashitsuke_kyoiku)

#### 制度内容

高等学校等への進学や通学に必要な経費を貸付け

#### 貸付対象

- 金融機関や他制度等からの借入が困難な低所得世帯等

## 高校卒業後、大学等へ進学する方向けの支援制度(返還不要)

#### 高等教育の修学支援新制度

授業料・入学金の免除・減額と、返還を要しない給付型奨学金により、大学、短期大学、高等専門学校(4年・5年)、専修学校(専門課程)に通う学生を支援する制度

#### 給付型奨学金についての問合せ先:独立行政法人日本学生支援機構

TEL: 0570-666-301(ナビダイヤル)

月曜～金曜:9時00分～20時00分(土日祝日・年末年始(12月29日～1月3日)を除く)

※貸与・給付型奨学金に関する手続きのスケジュール等については在学中の高等学校等または、  
進学先の大学等の奨学金担当窓口にお問い合わせください。

詳細は  
文部科学省ホームページを  
ご確認ください▶

<https://www.mext.go.jp/kyufo/index.htm>



私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。 SDGs 未来都市 神奈川県

Kanagawa committed to SDGs



## 神奈川県私立高校生等奨学給付金【通常給付】のお知らせ

### 生活保護（生業扶助）受給世帯又は住民税所得割非課税世帯が対象です

- 神奈川県では、私立高校生等の保護者（※）の授業料以外の教育費の負担を軽減するため、返済不要の「神奈川県私立高校生等奨学給付金」を支給しています。
- この制度は、授業料の負担を軽減する「高等学校等就学支援金」とは別の制度です。
- 対象となる方は忘れずに御申請ください。

（※）保護者は原則、親権を持つ父母2名（ひとり親家庭の場合は親権を持つ父又は母1名）を指します。

### 1 給付を受けることができる方 <次の①～③の要件をすべて満たす世帯>

#### ① 令和7年7月1日現在、保護者が神奈川県内に在住していること

- 保護者が1人でも海外在住の場合は支給対象外となります。

#### ② 生活保護（生業扶助）受給世帯または住民税所得割非課税世帯であること

- 令和7年7月1日現在、生活保護（生業扶助）受給世帯（以下「生活保護受給世帯」という。）であること。
- 保護者全員の令和7年度の県民税・市町村民税（住民税）所得割額の合計額が0円（非課税）の世帯（以下「非課税世帯」という。）であること。
  - 海外赴任等で日本国内に住所を有しないため非課税である場合は対象外となります。
  - 生徒が児童福祉施設（母子生活支援施設を除く）に入所している者又は里親に養育されている者等で、見学旅行費又は特別育成費が措置されている場合は対象外となります。

#### ③ 令和7年7月1日現在、生徒が私立高等学校等（※）に在学していること

- 生徒が就学支援金又は学び直し支援金の受給資格を有していること。

（※）私立中等教育学校（後期課程）、高等専門学校（1～3学年）、専修学校（高等課程）、等を含みます。

### 2 支給単価 <世帯区分及び在学する学校の課程により支給単価が異なります>

#### 対象となる高校生等1人当たりの支給単価（年額）

世帯区分	全日制・定時制	通信制
生活保護受給世帯	52,600円	
非課税世帯	152,000円	52,100円

### 3 提出期限・提出先 <提出期限後は申請を受付できません>

○ 提出期限 令和7年11月14日(金)まで

○ 提出先 〒 231-8588 横浜市中区日本大通1  
神奈川県 福祉子どもみらい局 子どもみらい部  
私学振興課 奨学給付金担当

- 郵送により提出してください。
- 提出期限日の消印有効ですが、時間に余裕を持って提出してください。
- 個人情報保護の関係上、電話での到着確認にはお答えできません。特定記録などで送付するなど、お手元に記録の残る方法でお送りいただくことを推奨いたします。

### 4 支給時期

令和7年9月16日頃～令和8年2月27日頃を予定しています。

- 申請された時期により支給時期は異なります。
- 申請時に御指定いただいた口座に神奈川県から直接振り込みます。
- 支給に先立ち、支給決定通知書または不支給決定通知書を神奈川県から送付します。
- 期限までに申請されても書類に不備があった場合は、不支給になることがあります。

<支給時期(予定)>

	県への提出日(消印日で判断)	振込予定日
①	7月15日(火)まで	9月16日(火)頃
②	9月8日(月)まで	12月12日(金)頃
③	11月14日(金)まで	2月27日(金)頃

### 5 提出書類 <提出前に漏れがないことを十分に確認してください>

- 申請に必要な書類等の詳細は、神奈川県ホームページを御確認ください。

(申請書等もすべて神奈川県ホームページから入手できます)

(県ホームページ)

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/syougakukyuuuhukinn.html>



※ 高校生1人ごとに申請が必要です。世帯に高校生等が複数いる場合は、全員分御提出ください。

### 6 問合せ先(神奈川県)

神奈川県 私学振興課 助成グループ

電話 045-210-3793 (直通)

(8:30～12:00、13:00～17:15 (土・日・祝日、年末年始を除く))

## 神奈川県私立高校生等奨学給付金【家計急変世帯対象給付】のお知らせ

### 令和6年1月以降に家計が急変した世帯が対象です

- 神奈川県では、家計が急変した世帯に対して、私立高校生等の保護者（※）の授業料以外の教育費の負担を軽減するため、返済不要の「高校生等奨学給付金（家計急変世帯対象給付）」を支給しています。
- 令和7年度の道府県民税・市町村民税所得割が**非課税である世帯**、又は令和7年7月1日現在、対象となる高校生等が**生活保護（生業扶助）を受給している世帯**は、「家計急変世帯対象給付」ではなく、「**通常給付**」の対象となりますので、該当される方は、通常給付の書類で申請してください。
- この制度は、授業料の負担を軽減する「高等学校等就学支援金」とは別の制度です。対象となる方は忘れずに御申請ください。

（※）保護者は原則、親権を持つ父母2名（ひとり親家庭の場合は親権を持つ父又は母1名）を指します。

### 1 給付を受けることができる方 <次の要件をすべて満たす世帯>

- （1）令和6年1月以降に発生した家計急変による経済的理由から、保護者等全員の年収見込が「道府県民税・市町村民税所得割が非課税である世帯」に相当すると認められること**

<道府県民税・市町村民税所得割が非課税である世帯に相当する年収見込の例>

扶養人数	0人	1人	1人 (ひとり親)	2人	3人	4人	5人
① 個人事業者 (所得見込額)	450,000円 以下	1,120,000円 以下	1,350,000円 以下	1,470,000円 以下	1,820,000円 以下	2,170,000円 以下	2,520,000円 以下
② 給与所得者 (給与収入見込額)	1,000,000円 未満	1,704,000円 未満	2,044,000円 未満	2,216,000円 未満	2,716,000円 未満	3,216,000円 未満	3,704,000円 未満

※ この例に該当しない場合はお問合せください。

- 保護者等が複数いる場合は、それぞれの保護者等が非課税相当である必要があります。  
(例) 父母ともに給与所得者で、父が子2人を扶養している（母は控除対象配偶者ではない）場合  
給与収入見込額が、父2,216,000円未満、かつ母1,000,000円未満である必要があります。
- 個人事業者の場合は、令和7年の年収見込（所得額：売上－必要経費）が①に該当する必要があります。
- 給与所得者の場合は、令和7年の年収見込（交通費等非課税額を除く給与収入額）が②に該当する必要があります。

- （2）認定基準日（※）現在、保護者等が神奈川県内に居住していること**

- （3）認定基準日（※）現在、高校生等が高等学校等に在学していること**

※ 高校生1人ごとに申請が必要です。世帯に高校生等が複数いる場合は、全員分御提出ください。

（※）認定基準日

- 令和7年7月1日以前に家計が急変した場合は、令和7年7月1日が認定基準日となります。
- 令和7年7月2日以降に家計が急変した場合は、家計が急変した月の翌月（家計が急変した日が月の初日である場合は、家計が急変した月）の1日が認定基準日となります。

- <例> • 家計が急変した日が令和7年8月5日の場合 ➤ 認定基準日は令和7年9月1日  
• 家計が急変した日が令和7年10月1日の場合 ➤ 認定基準日は令和7年10月1日

### 2 提出書類・問合せ先

- ・ 申請に必要な書類等の詳細は、神奈川県ホームページを御確認ください。**  
**（申請書等もすべて神奈川県ホームページから入手できます）**

（県ホームページ）

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3e/jyosei/gakuhisien/syougakukyuuukinn.html>

問合せ先：神奈川県私学振興課 電話045-210-3793



### 3 家計急変事由について

令和6年1月以降に、次の家計急変が生じた方が対象となります。

- ア 紙与所得者で、解雇又は減額等の場合（ただし、定年退職は対象とはなりません）
- イ 個人事業者で、自ら経営する会社等の倒産又は業績悪化等の場合
- ウ 保護者等の離婚（死別）等の場合（ただし、別居等は家計急変対象とはなりません）
- エ 保護者等の傷病等により収入が減収した場合

等

### 4 支給単価（年額）

保護者等全員の年収見込が非課税に相当すると認められる世帯で、対象となる高校生等が次の課程に在学している場合

全日制・定時制	通信制
152,000 円	52,100 円

○ 7月1日以前に家計が急変した場合は年額を給付します。

○ 7月2日以降に家計が急変した場合は月割額（認定基準日から3月までの月数を乗じた額を12で除した額）を給付します。

<支給例（認定基準日が令和7年10月1日の場合）>

全日制に通う高校生等の保護者が、令和7年10月1日に経営する会社が倒産し、年収見込が非課税世帯相当となった場合

- ・ 令和7年10月～令和8年3月までの6か月分を支給
- ・ 年額  $152,000 \text{ 円} \times 6 \text{ 月} / 12 \text{ 月} = 76,000 \text{ 円}$  を給付

### 5 申請期限・提出先

○ 提出期限 **令和7年7月1日（火）～令和8年1月19日（月）**

○ 提出先 **〒 231-8588 横浜市中区日本大通1**

**神奈川県 福祉子どもみらい局 子どもみらい部 私学振興課 奨学給付金担当**

- ・ 郵送により提出してください。
- ・ 提出期限日の消印有効ですが、時間に余裕を持って提出してください。
- ・ 個人情報保護の関係上、電話での到着確認にはお答えできません。 特定記録などで送付するなど、お手元に記録の残る方法でお送りいただくことを推奨いたします。

### 6 支給時期

○ 支給時期 **令和7年9月16日頃～令和8年3月13日頃（予定）**

- ・ 申請された時期により支給時期は異なります。
- ・ 申請時に指定いただいた口座に神奈川県から直接振り込みます。
- ・ 支給に先立ち、支給決定通知書又は不支給決定通知書を神奈川県から送付します。

### 7 制服が災害等により喪失・毀損した場合

着用を義務付けられている制服が災害等により喪失・毀損した場合であって、再度、制服の購入が必要である場合は、支給額に加算がある場合があります。詳細は、問合せ先にご連絡ください。

◎…提出必須 ○…いずれかを提出 △…該当する場合にのみ提出

	提出書類	添付書類（いずれもコピーで可）・留意事項	
1	高校生等奨学給付金受給申請書（第1号様式）	申請書の表面の委任・誓約欄の内容に関するチェックは必須	◎
2	在学証明書（第1号様式別添又は学校様式）	在学証明書は、認定基準日（※1）を記載	◎
3	振込先登録用紙（第2号様式）	振込口座番号等が分かる通帳ページ等の写しを貼付	◎
4	家計急変理由書（様式A） 右の書類を添付	給与所得者	離職票、雇用保険受給資格者証、解雇通知書、減額通知書、診断書等
		個人事業者	廃業等届、破産宣告通知書、公的支援金受給証明書、診断書等
		離婚	戸籍全部事項証明書（戸籍謄本）、戸籍個人事項証明書（戸籍抄本）、離婚届受理証明書
5	家計急変前の収入証明書類	<p>＜保護者等全員分（父母がいる場合、父母2名分）＞</p> <p>令和7年度の市民税・県民税課税証明書（コピーも可）</p> <p>※市町村民税の扶養親族の内訳が省略されていないもの</p>	◎
6	家計急変後の収入証明書類 右の書類を添付	給与所得者	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務先作成の給与見込証明書（様式B又は勤務先作成の任意様式）（※2）</li> <li>＜勤務先が証明書を作成できない場合のみ＞</li> <li>申請者が作成した様式B</li> <li>及び</li> <li>給与明細、賞与支給明細（※3）</li> </ul>
		個人事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>税理士又は公認会計士作成の証明書（※2）</li> <li>＜税理士又は公認会計士の作成した証明書の提出ができない場合のみ＞</li> <li>申請者が作成した様式C（様式C別添含む）</li> <li>及び</li> <li>帳簿等（売上・経費が分かるもの）（※3）</li> </ul>
7	扶養誓約書（様式D）	健康保険法等における扶養者と被扶養者の関係と同等の関係の者を記入	◎
8	収入状況申立書（様式E）	無収入であることの証明の手立てがない方（※4）のみ提出	△
9	委任状（未済用）	学校納付金に未済がない場合は不要	△
10	委任状（権限委譲用）	振込先指定口座が保護者等や高校生等本人の場合は不要	△

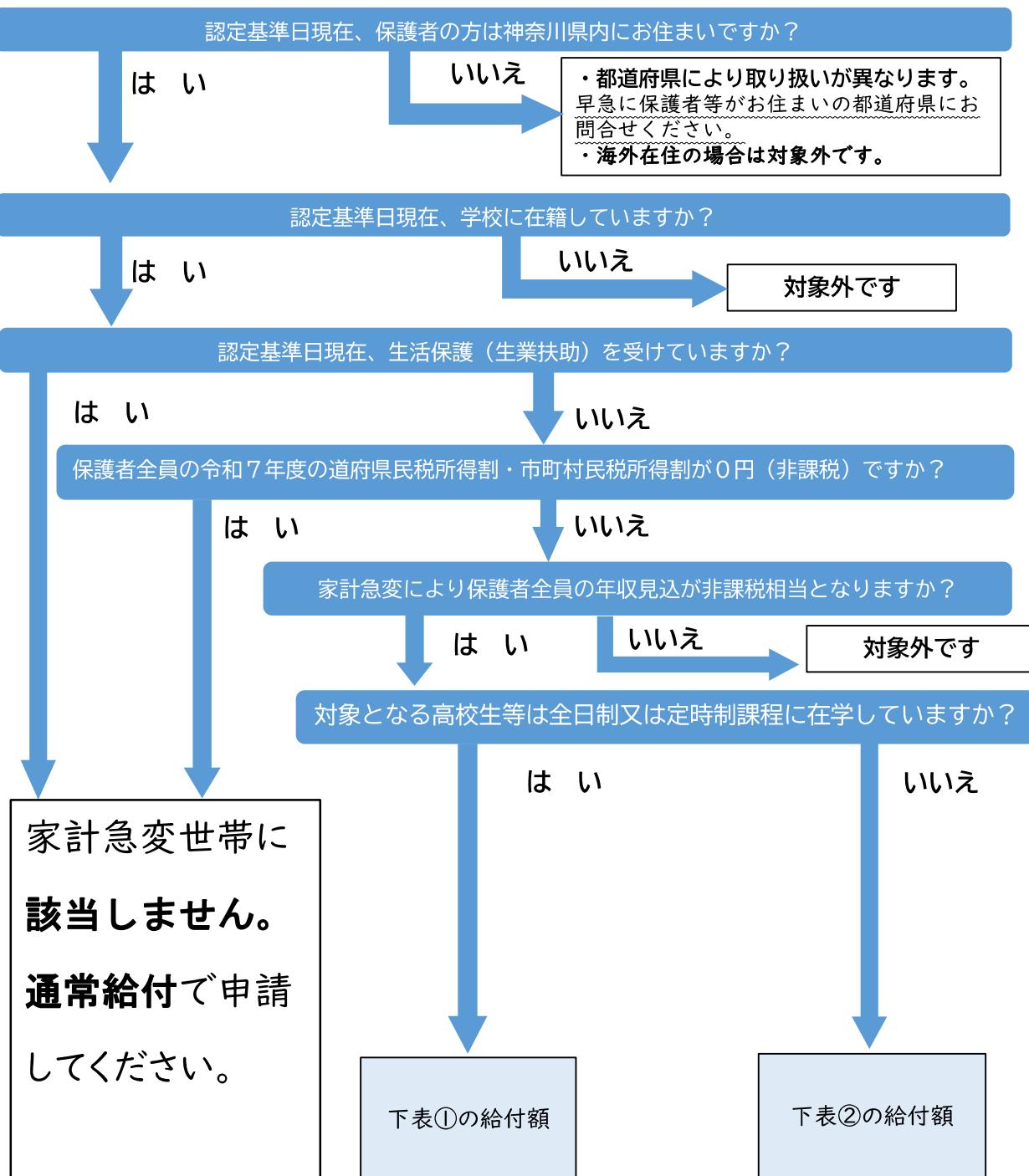
（※1）家計急変事由発生日が令和7年7月1日以前の場合は令和7年7月1日。令和7年7月2日以降の場合は、家計が急変した月の翌月（家計急変事由発生日が月の初日である場合は、家計が急変した月）の1日。

（※2）令和7年1月から申請日の前月（家計が急変した月と申請日の属する月が同じ場合は当該月）までの証明が必要です。税理士・公認会計士に証明書の作成を依頼する際は、様式Cの記載内容を盛り込むよう依頼してください。

（※3）令和7年1月から申請日の前月（家計が急変した月と申請日の属する月が同じ場合は当該月）までの給与明細、賞与支給明細（個人事業者の場合は帳簿等）の提出が必要です。

（※4）退職後、再就職までの間に無職の期間があった方、専業主婦（夫） 等

## 高校生等奨学給付金（家計急変世帯対象給付）給付対象者及び給付単価確認シート



### 給付単価

世帯状況	年額(私立)
① 非課税世帯（全日制・定時制）	152,000円
② 非課税世帯（通信制）	52,100円

### ※参考 国公立給付単価

世帯状況	年額(国公立)
非課税世帯（全日制・定時制）	143,700円
非課税世帯（通信制）	50,500円

◆上記の単価は年額の例です。7月2日以降に家計急変した場合は、認定基準日から3月までの月数に応じた月割額となりますので上記の単価とは異なります。